

236号の概要

本号では7月1日・7月2日経済産業省「商品情報連携会議」での検討WG開催の内容を ご紹介
します。また、7月4日開催された「製配販連携協議会総会/フォーラム」に於いて「サプライ
チェーンイノベーション大賞2025」の大賞・優秀賞に選ばれた取り組みをご紹介します。
7月30日に開催した第2回「メーカー・卸間次世代標準EDI協議会」幹事会の資料も掲 載しまし
た。2025年度の各委員会委員名簿、各支部役員名簿も掲載しております。

CONTENTS

●業界動向

・商品情報連携ワーキング（経済産業省）

7月1日「第1回商品情報の在り方・商習慣に関する検討WG」開催

https://www.meti.go.jp/policy/economy/distribution/merchandising_data2025a_wg_c1.html

7月2日「第1回商品情報の取扱いに関する検討WG」開催

https://www.meti.go.jp/policy/economy/distribution/merchandising_data2025a_wg_b1.html

・製配販連携協議会総会/フォーラム

7月4日「製配販連携協議会総会/フォーラム」でキューピー株式会社、キューソー流
通システム株式会社、加藤産業株式会社の3社共同で取り組んだ「共同配送におけ
るASN入荷検品レスの実現」と、三菱食品株式会社の「サステナブルなサプライチェ
ーンの実現を目指した”輸配送のオープン化”の取組み」が「サプライチェーンイ
ノベーション大賞2025」の優秀賞を受賞

https://www.meti.go.jp/policy/economy/distribution/sci_2025.html

●本部活動

・7月30日（水）14:00～ 第2回「メーカー・卸間次世代標準EDI協議会」幹事会開催
会場：CIVI研修センター日本橋 605号室

[幹事会資料](#)

●支部活動

・定時総会

九州・沖縄支部 7月7日(月) 北海道支部 7月8日(火) 中四国支部 7月10日(木)

北陸支部 7月15日(火) 東北支部 7月17日(木)

[各支部総会の模様](#)

・九州・沖縄支部 7月7日(月) 幹事会

・北海道支部 7月8日(火) 常任幹事会

・東北支部 7月17日(木) 賛助会員連絡会

●N-Torusニュース

・N-Torusリソース拡張に伴うURLアドレス変更の件（継続掲載）

[N-Torus URLアドレス変更のご案内](#)

・「N-Torusサービス申込書」の書式は不定期で改修しておりますので、拠点お申し込み
の際はホームページからダウンロードしてご利用ください。

- 2025年度
 - ・ [各委員会委員名簿](#)
 - ・ [各支部役員名簿](#)

●2025年度 委員会・研究会・専門部会・WG活動 (2025年7月1日～7月31日)

- ・ 7月16日（水） 第2回法務研究会 会場：日食協会議室及びWEB
「各社債権管理状況」、「取適法（下請法改正）の対応」について 他
- ・ 7月22日（火） 第3回E D I -WG、第3回次世代標準E D I 検討専門部会合同会議
会場：日食協会議室及びWEB
事前出荷情報（ASN）の運用検討、BMSに関する基本方針検討、BMSに関する技術基盤検討、
小売専用データ交換フロー検討、協議会検討内容とスケジュール,各社様意見 他
- ・ 7月25日（金） 第3回情報システム研究会 会場：日食協会議室及びWEB
- ・ 7月29日（火） 第2回環境問題分科会 会場：日食協会議室及びWEB
- ・ 7月30日（水） 第2回メーカー・卸間次世代標準EDI推進協議会幹事会
会場：CIVI研修センター日本橋 605号室

幹事会資料

メーカー・卸間次世代標準 E D I 推進協議会

～ 次世代EDI Step1検討 ～

2025年7月30日



一般社団法人 日本加工食品卸協会

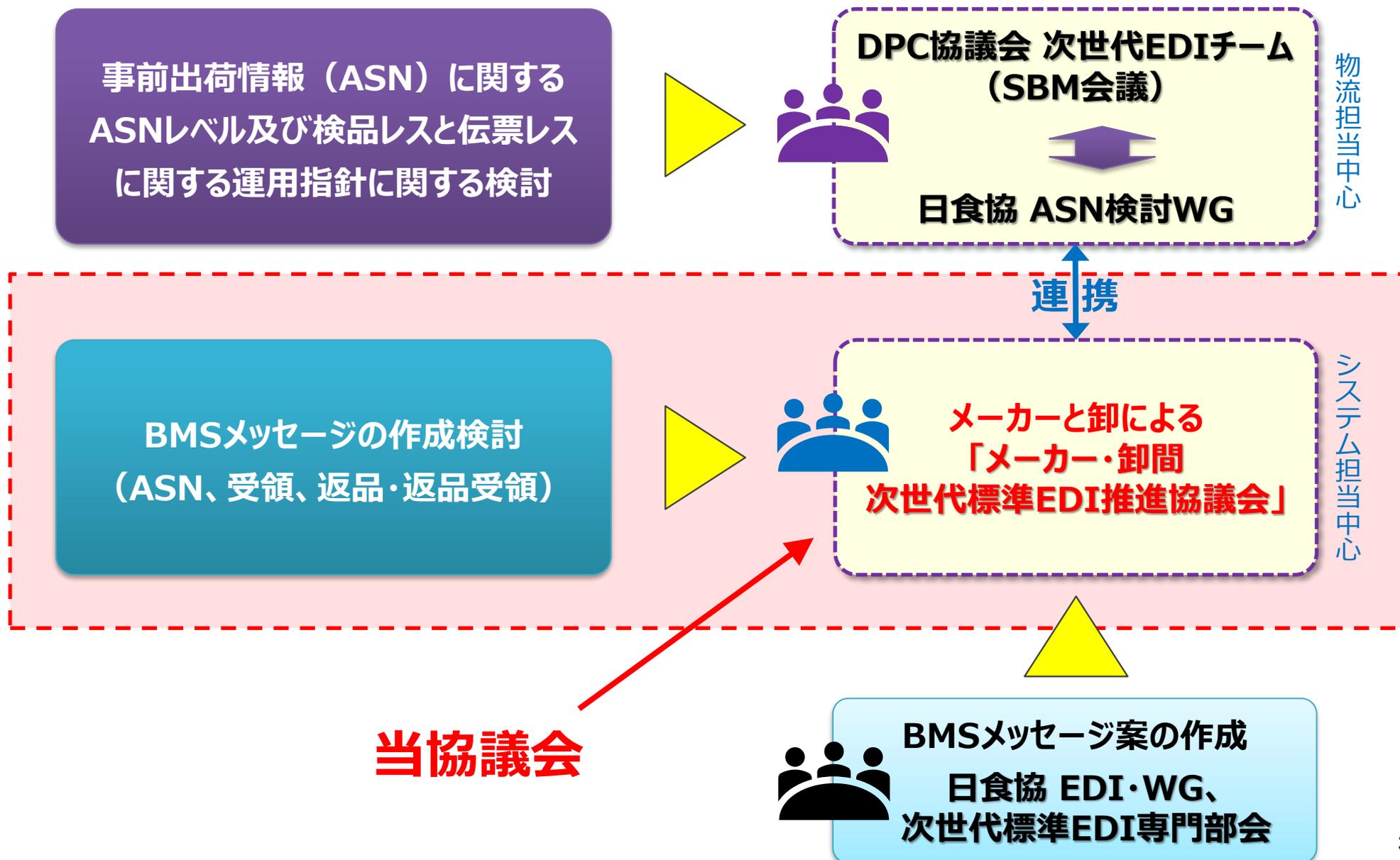
目次

- I. メーカー・卸間検討体制
- II. 事前出荷情報（ASN）の運用検討
- III. B M Sに関する基本方針検討
- IV. B M Sに関する技術基盤検討
- V. 小売専用データ交換フロー検討
- VI. 協議会検討内容とスケジュール感
- VII. 各社様ご意見

I. メーカー・卸間検討体制

1. メーカーと卸の検討体制

《 メーカーと卸の検討体制 》 ※2024年12月「メーカー・卸間次世代標準EDI」に関する説明会資料より



2. 協議会の体制

目的は、加工食品サプライチェーンにおけるメーカー・卸間の次世代の標準EDIを策定し、先ずは、「持続可能な物流の構築」に関する導入が急がれる事前出荷情報（ASN）等の計画・活用・実施

メーカー・卸間次世代標準EDI推進協議会 (略称：次世代EDI協議会)



事務局
一般社団法人
日本加工食品卸協会

(五十音順、敬称略)

全体会 (メーカー29社、卸8社、オブザーバー1団体・1社)

幹事会

メーカー (11社)

- ・アサヒビール(株)
- ・味の素(株)
- ・カルビー(株)
- ・菊正宗酒造(株)
- ・キューピー(株)
- ・キリングroupロジスティクス(株)
- ・サントリーシステムテクノロジー(株)
- ・日清食品ホールディングス(株)
- ・(株)ニッポン
- ・ハウス食品(株)
- ・明治ホールディングス(株)

卸 (8社)

- ・伊藤忠食品(株)
- ・加藤産業(株)
- ・国分グループ本社(株)
- ・(株)日本アクセス
- ・日本酒類販売(株)
- ・三井物産流通グループ(株)
- ・三菱食品(株)
- ・(株)山星屋

メーカー (18社)

- ・大塚食品(株)
- ・カゴメ(株)
- ・(株)加藤美蜂園
- ・カルピス(株)
- ・クラシエ(株)
- ・月桂冠(株)
- ・サッポロビール(株)
- ・田中食品(株)
- ・テーブルマーク(株)
- ・日清オイリオグループ(株)
- ・(株)日清製粉ウェルナ
- ・ネスレ日本(株)
- ・ハナマルキ(株)
- ・ヒガシマル醤油(株)
- ・マルハニチロ(株)
- ・(株)明治屋
- ・ヤマキ(株)
- ・理研ビタミン(株)

オブザーバー (1団体、1社)

- ・GS1 Japan
- ・(株)ファイネット

Ⅱ. 事前出荷情報（ASN）の運用指針検討

1. 運用指針について

- 運用指針に関し、現時点では各社の体制や業務及びコスト等の課題があり、実現するのは難しいと推測しますが、持続可能な物流体制構築に向け、物流問題の解決、次世代物流運用に向け、中長期に渡り実現できればと考えます。

（現時点で各社の諸事情等があると思いますが、将来の目指す姿としてお考えください）

- 運用指針に関する各社のご意見は、「幹事会後の運用指針に関するメーカー意見まとめ」と「幹事会後の各社アンケート回答内容」をご確認ください。
- 各社のご意見は、運用指針を検討するDPC協議会 次世代EDIチーム（SBM会議）と日食協 ASN検討WGにお伝えします。また、その後の結果等については当協議会にて情報共有します。
- 当協議会は、現時点の運用指針を基にシステム的なBMSメッセージの作成検討（ASN、受領、返品・返品受領）を進めます。

もし、その後運用指針に変更が入り、システム的な影響が出た場合は、検討・調整します。

Ⅲ. BMSに関する基本方針検討

1. 各社様ご意見と検討方針

No.	ご意見	検討方針
1	仮ASNデータ定義／名称	メーカーが卸に対し、受注後の出荷予定数量を伝えるために使用されるメッセージ。現在利用されているリファックスに代わる機能として、アナログ運用をデジタル化することで、業界全体としての業務効率化、精度向上、情報伝達コストの削減、環境負荷の低減、柔軟な働き方の実現を目的とする。メッセージ名称については、本日検討予定。
2	受領データ定義／名称	DPC協議会・次世代EDIチームにて検討し、方向性が定まった後、当協議会にて検討を再開する。
3	他業界フォーマットとの連携	菓子（e-お菓子ねっと） → Step1から同時検討 日雑（プラネット） → 別途検討 医薬（JD-NET） → 別途検討 ※上記は4/30全体会説明内容 ※医薬（JD-NET）は3/26第1回幹事会開催時のご意見
4	定義する項目	BMSに関する基本方針の方向性が定まった後、「項目定義」内でテーマ検討を行っていく。
5	鮮度日付オプション化	BMSに関する基本方針の方向性が定まった後、「項目定義」内でテーマ検討を行っていく。
6	バリデーションチェック仕様	BMSに関する基本方針の方向性が定まった後、「VAN機能」内でテーマ検討を行っていく。

2. 次世代EDI検討方針

1. 検討テーマ 現在の日食協標準EDIフォーマットにおける課題解決や要望への対応方針

課 題					
技術的老朽化	新データ種 フォーマットの 要望	現行運用と 仕様書の 老朽化	未利用等 フォーマット の対応	ASNの利活用	業際間の 標準化

2. 前回迄方針 日食協フォーマットをバージョンアップせず、新たにメーカー・卸間BMSを構築する。
ただし法対応等が必要となった場合は、適宜最適な対応方針を検討する。

3. BMS検討方針

1. 検討テーマ メーカー・卸間BMSの定義
2. 前回迄方針 現在、流通BMSは「流通BMS基本形」と「流通BMS百貨店版」の2種類がある。
メーカー・卸間の次世代EDIは、「流通BMS基本形」、「流通BMS百貨店版」と
並列となる「BMSメーカー・卸間版」を作成する。

4. 現行フォーマットからの検討方針

1. 検討テーマ 日食協以外のフォーマットとの統合や扱い
2. 前回迄方針 菓子（e-お菓子ねっと） → Step1から同時検討
日雑（プラネット） → 別途検討
医薬（JD-NET） → 別途検討

5. システム定義資料

1. 検討テーマ 当協議会にて作成するシステム定義資料
2. 前回提示案 以下4つの資料を定義する。
 - 1) メッセージ別定義一覧表
 - 2) メッセージ引継項目一覧
 - 3) メッセージ別項目一覧
 - 4) コードリスト一覧
3. 本日方針案 変更なし（前回提示案）

5. システム定義資料

1) メッセージ別定義一覧表

※下記は「流通BMS基本形」のサンプル

メッセージ名称	定義	伝達方向	対象業務プロセス	備考
1 発注メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 小売企業が卸やメーカーに商品を発注するために使用するメッセージ。 卸企業やメーカーはこのメッセージをもって受注する。予定発注ではなく、商品や数量が確定した発注である。また、取引形態は買取取引となる。小売企業側は発注メッセージで取引番号を付番する。この取引番号は支払メッセージまで引き継がれていく。 	小売企業 → 卸・メーカー	受発注型業務プロセス	
2 出荷メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 卸やメーカーが小売企業に事前に出荷明細情報を伝えるために使用するメッセージ。 小売企業はこのメッセージの内容と実際の入荷内容を突き合わせて検品を行う。出荷メッセージは発注メッセージでセットされた取引番号や支払企業、発注者、納品先、請求取引先、商品コード等を引き継いだ上で、訂正後納品日、出荷数量、欠品数量、出荷荷姿に関する情報を付加したものである。 	小売企業 ← 卸・メーカー	受発注型業務プロセス	
3 出荷梱包(紐付あり)メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 卸やメーカーが小売企業に対し事前に出荷明細情報を伝えるために使用するメッセージ。小売企業はこのメッセージの内容と実際の入荷内容を突き合わせて検品を行う。 このメッセージは、梱包Noと明細の紐付けがされている形式である。発注メッセージでセットされた取引番号や支払企業、発注者、納品先、商品コード、数量、納品日、単価等を引き継いだ上で、訂正後納品日、出荷数量、欠品数量、ITF情報等を付加したものである。 	小売企業 ← 卸・メーカー	受発注型業務プロセス	
4 出荷梱包(紐付なし)メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 卸やメーカーが小売企業に対し事前に出荷明細情報を伝えるために使用するメッセージ。小売企業はこのメッセージの内容と実際の入荷内容を突き合わせて検品を行う。 このメッセージは、梱包Noと明細の紐付けがされていない形式である。発注メッセージでセットされた取引番号や支払企業、発注者、請求取引先、商品コード、数量、納品日、単価等を引き継いだ上で訂正後納品日、出荷数量、欠品数量、ITF情報等を付加したものである。 	小売企業 ← 卸・メーカー	受発注型業務プロセス	
5 受領メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 卸やメーカーから送られてきた出荷メッセージ、出荷梱包メッセージの内容と入荷内容を小売企業側が付き合わせた結果を連絡するメッセージ。 予定の梱包・商品が過不足なく入荷したかどうかを伝える。発注・出荷でセットした項目が引き継がれているので、受領メッセージを確認すれば、発注・出荷における取引が確認できる。 	小売企業 → 卸・メーカー	受発注型業務プロセス	
6 受領訂正メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 小売店舗、物流センターへの納品に対し、小売受領後に発覚した納品数量不足を把握して、正しい決済を行うため使用されるメッセージ。 使用するには、小売・卸双方で調査及び訂正可否検討を行い、両者にて訂正合意がなされた場合のみ可能とする。この時に発生したデータはすべて支払データにのせ、取引行為(受領後の訂正)があった 	小売企業 → 卸・メーカー	受発注型業務プロセス	

5. システム定義資料

2) メッセージ引継項目一覧

※下記は「流通BMS基本形」のサンプル

メッセージ項目番号	分類	項目名	必須/任意	タイプ	XMLデータ型*1	桁数	発注	出荷	出荷梱包 (紐付けあり)	出荷梱包 (紐付けなし)	受領	受領訂正	返品	請求	支払
1	データ整合性	送信者ID	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2		送信者ID発行元	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3		受信者ID	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4		受信者ID発行元	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5		バージョン	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6		インスタンスID	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
7		メッセージ種	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
8		作成日時	必須	日時	dateTime		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
9		テスト区分ID	任意	文字	string		○	○	○	○	○	○	○	○	○
10		最終送信先ID	任意	文字	string		○	○	○	○	○	○	○	○	○
11		メッセージ識別ID	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
12		送信者ステーションアドレス	任意	英数	Identifier	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13		最終受信者ステーションアドレス	任意	英数	Identifier	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14		直接受信者ステーションアドレス	任意	英数	Identifier	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15		取引数	任意	数字	Numeric	7	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21	登場人物：小売	支払法人コード	必須	数字	Identifier	MAX13	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎
22		支払法人GLN	必須	数字	Identifier	MAX13	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎
23		発注者コード	必須	数字	Identifier	MAX13	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
24		発注者GLN	必須	数字	Identifier	MAX13	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
25		発注者名称	任意	文字	Text	MAX20	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26		発注者名称カナ	任意	文字(半角カナ)	Text	MAX20	○	○	○	○	○	○	○	○	○
27		直接納品先コード	任意	数字	Identifier	MAX13	●	●	●	●	●	○	◎		

参考

5. システム定義資料

3) メッセージ別項目一覧

※下記は「流通BMS基本形」のサンプル

(1)発注メッセージ

連番	メッセージ項目番号	分類	項目名 1	項目名 2	項目名 3	必須 / 任意	タイプ	XMLデータ型 *1	桁数	引継項目	項目の意味
SBDH											
1	1	データ整合性	送着者ID			必須	文字	string			送着者を示すID。取引先と相称のうえ、独自コードあるいはGLNを使って送着者IDを決定し入力する。
2	2	データ整合性	送着者ID発行元			必須	文字	string			送着者IDの種別。送着者IDが独自コードの場合は“CODE”、GLNの場合は“GLN”と入力する。
3	3	データ整合性	受着者ID			必須	文字	string			受着者を示すID。取引先と相称のうえ、独自コードあるいはGLNを使って送着者IDを決定し入力する。
4	4	データ整合性	受着者ID発行元			必須	文字	string			受着者IDの種別。受着者IDが独自コードの場合は“CODE”、GLNの場合は“GLN”と入力する。
5	5	データ整合性	バージョン			必須	文字	string			ビジネスメッセージのメジャーバージョン。
6	6	データ整合性	インスタンスID			必須	文字	string			ビジネスメッセージの一層種別。英数字を使い40文字程度のユニークIDを生成し入力する。
7	7	データ整合性	メッセージ種			必須	文字	string			ビジネスメッセージの種別。メッセージのタイプを示す種を入力する。
8	8	データ整合性	作成日時			必須	日時	dateTime			メッセージ全体の作成日・時間
9	9	データ整合性	テスト区分ID			任意	文字	string			テスト区分。このメッセージのデータが本番用なのかテスト用なのかを判別する。テストデータの場、テストのスコップを作成する。
10	10	データ整合性	最終送着先ID			任意	文字	string			最終送着先を示すID。最終送着先IDを使用する場合は、最終送着先のスコップを作成する。
メッセージ情報											
11	11	データ整合性	メッセージ識別ID			必須	文字	string			メッセージ識別。SBDHのビジネス文書種別のインスタンスIDに付した直前の“MSG-”を足したものを入力する。
12	12	データ整合性	送着者ステーションアドレス			任意	英数	identifier	8		取引JCA手続との併用期間中、宛先（ステーションアドレス）単位の送受条件の集計を行う場合に使用する。
13	13	データ整合性	最終受着者ステーションアドレス			任意	英数	identifier	8		取引JCA手続との併用期間中、宛先（ステーションアドレス）単位の送受条件の集計を行う場合に使用する。
14	14	データ整合性	直接受着者ステーションアドレス			任意	英数	identifier	8		取引JCA手続との併用期間中、宛先（ステーションアドレス）単位の送受条件の集計を行う場合に使用する。
15	15	データ整合性	取引順			任意	数字	Numeric	7		ビジネスメッセージにおける取引順。
			<支払企業>								
16	21	登録人物：小売	支払法人コード			必須	数字	identifier	MAX13		発注の支払を行う小売企業(会社)を表す独自コード。通常は23「発注者コード」と同じ値が入るが、小売側がグループ内に複数事業会社を併発、仕入会社と支払会社がある場合は、それぞれ異なる会社コードが入る。
17	22	登録人物：小売	支払法人GLN			必須	数字	identifier	MAX13		発注の支払を行う小売企業を表すGLN。通常は24「発注者GLN」と同じ値が入るが、小売側がグループ内に複数事業会社を併発、仕入会社と支払会社がある場合は、それぞれ異なるGLNが入る。GLNを使用しない場合は「0」固定。
			<発注者>								
18	23	登録人物：小売	発注者コード			必須	数字	identifier	MAX13		発注の発注を行う小売企業を表す独自コード。
19	24	登録人物：小売	発注者GLN			必須	数字	identifier	MAX13		発注の発注を行う小売企業を表すGLN。GLNを使用しない場合は「0」固定。
20	25	登録人物：小売	発注者名称			任意	文字	Text	MAX20		23「発注者コード」の名称。卸/メーカーで社内構築を作成する際の名称表示に使用。
21	26	登録人物：小売	発注者名称カナ			任意	文字 (半角カナ)	Text	MAX20		23「発注者コード」の名称(半角カナ)。卸/メーカーで社内構築を作成する必要がある場合、あるいは社内構築を作成する際の名称表示に使用。
			<取引>								
22	121	番号		取引番号(発注・送着)		必須	数字	identifier	MAX10		小売側が卸/メーカーに行う発注、送着の単位。伝票番号と同じ意味
23	122	番号		取引付属番号		任意	数字	identifier	MAX10		取引番号の直前に特定の意味を持たせる必要がある場合、1桁目番号ごとに小売側が付番。(例：番付番号、外注番号、特売企画NO、送着許可証番号、受領後の訂正で使う元伝NO、配達伝票番号など)
			<直接納品先>								
24	27	登録人物：小売	直接納品先コード			任意*3	数字	identifier	MAX13		卸/メーカーが電話を納品する場所(小売の物流センター、店舗)をあらわす独自コード。小売側が指定。
25	28	登録人物：小売	直接納品先GLN			任意*3	数字	identifier	MAX13		卸/メーカーが電話を納品する場所(小売の物流センター、店舗)をあらわすGLN。小売側が指定。GLNを使用しない場合は「0」固定。
26	29	登録人物：小売	直接納品先名称			任意	文字	Text	MAX20		27「直接納品先コード」の名称。卸/メーカーで社内構築を作成する際の名称表示に使用する。
27	30	登録人物：小売	直接納品先名称カナ			任意	文字 (半角カナ)	Text	MAX20		27「直接納品先コード」の名称(半角カナ)。卸/メーカーで社内構築を作成する際の名称表示に使用する。

5. システム定義資料

4) コードリスト一覧

※下記は「流通BMS基本形」のサンプル

メッセージ 項目番号	項目名	コード	意味	補足等
75	商品コード区分	004	EAN(JAN)/UCC8桁	
		005	EAN(JAN)/UCC13桁	GDSの「バーコードタイプリスト」に準拠
		006	EAN/UCC14桁(GTIN)	GDSのコードを盛り込み済み
		007	ITF14桁	
		015	UPC12桁	
		016	UPC8桁	
		999	自社コード	
154	発注単位コード	00	個	他商材で必要なものが出てきた場合に追加。
			g	
			Kg	
			cm	
			m	
			ml(cc)	
			L	
155	発注荷姿コード	01	バラ	
		02	ボール	
		03	ケース	
		04	パレット	
		05	バンドル	
		...		
156	出荷荷姿コード	00	無指定	
		01	バラ	
		02	ボール	
		03	ケース	
		04	パレット	
		05	バンドル	
171	商品区分	01	定番	
		02	準特価(中目)	
		03	特売(チラシ)	
172	発注区分	01	本部(計画)発注	
		02	店舗(追加)発注	
		03	センター発注	
		04	客注	

6. 項目定義方法

1. 検討テーマ 各項目における定義方針
2. 前回提示案
 - 1) 対象メッセージにて、定義する項目の一覧を作成する。
定義される項目は、BMSのメッセージ項目とし、
項目ごとの「タイプ」、「XMLデータ型」、「桁数」を定義する。
※資料：メッセージ引継項目一覧、コードリスト一覧
 - 2) メッセージ×項目ごとの「必須／任意」を定義する。
※資料：メッセージ別項目一覧
 - 3) 同一項目の引継ぎ項目を整理する。
※資料：メッセージ引継項目一覧
3. 本日方針案 変更なし（前回提示案）

7. 検討対象データ種

1. 検討テーマ Step1で検討対象とするデータ種
2. 前回提示案 Step1では、「事前出荷情報（ASN）の運用指針（案）」にて整理した受発注、仮ASN、ASN、受領の4データ種を検討対象データとする。
3. 本日方針案 Step1では、「事前出荷情報（ASN）の運用指針（案）」にて整理したデータ種の内、受発注、仮ASN、ASNの3データ種を検討対象データとする。

8. 既存項目定義方針

1. 検討テーマ 既存フォーマットにて設定されている各種項目について、次世代EDIではどのように定義するかの全体方針
2. 前回提示案 日食協FMT・受発注データ（Ver2,3）、事前出荷情報（ASN）データ（Ver1）、e-お菓子ねっと・発注データ、在庫予定データ、受領データ（何れもV2）にて設定されている項目は、基本的に次世代EDIでも項目として定義することとする。
次世代EDI ⇔ 現フォーマット のマッピングを可能としておく。
3. 本日方針案 日食協FMT・受発注データ（Ver2,3）、事前出荷情報（ASN）データ（Ver1）、e-お菓子ねっと・発注データ、在庫予定データ（何れもV2）にて設定されている項目は、基本的に次世代EDIでも項目として定義することとする。
次世代EDI ⇔ 現フォーマット のマッピングを可能としておく。

9. 新設項目定義方針

1. 検討テーマ 既存フォーマットにて設定されていない項目における定義方針
2. 前回提示案 DPC協議会・次世代EDI検討チームにて検討されている業務プロセスを実現するために必要な情報は項目として定義する。
3. 本日方針案 変更なし（前回提示案）

10. 新メッセージ種

1. 検討テーマ 新メッセージのデータ種の定義
2. 前回提示案
 - 1) 日食協・受発注データ、e-お菓子ねっと・発注データは、「発注メッセージ」として定義する。
 - 2) 日食協・事前出荷情報（ASN）データ、e-お菓子ねっと・入庫予定データは、「事前出荷メッセージ」として定義する。
メッセージ数は、前述仮ASNデータとASNデータの定義検討完了後に決定する。

仮ASNデータとASNデータは以下4案にて検討（次頁以降に詳細再掲）
 - (A案) 7メッセージ種設定（仮ASN×1+ASN×6）
 - (B案) 4メッセージ種設定（仮ASN×1+ASN×3）
 - (C案) 2メッセージ種設定（仮ASN×1+ASN×1）
 - (D案) 1メッセージ種設定（仮ASN&ASN×1）
 - 3) e-お菓子ねっと・受領データは、「受領メッセージ」として定義する。

10. 新メッセージ種

◆仮ASNデータとASNデータ種検討時に前提整理

データ・レベル	目的用途	卸利用部署	鮮度管理	パターン	運用上の【必須／任意／なし】		
					商品鮮度日付	便No.	パレット管理No.
仮ASNデータ	発注返信 FAX代替	発注部署	不要	1	なし（任意）	任意	任意
			要	2	任意	任意	任意
ASNデータレベル1	検品レス	物流センター	不要	3	なし（任意）	任意	任意
			要	4	必須	任意	任意
ASNデータレベル2	検品レス	物流センター	不要	5	なし（任意）	必須	任意
			要	6	必須	必須	任意
ASNデータレベル3	検品レス	物流センター	不要	7	なし（任意）	必須	必須
			要	8	必須	必須	必須

◎バリデーションチェック仕様を、上記運用上の【必須／任意】（なしは任意）に合わせた場合、

パターン1と2は、同メッセージ種とすることが可能だが、
パターン3～8は、別メッセージ種にする必要がある

10. 新メッセージ種

◆ 仮ASNデータとASNデータにおけるメッセージ種と項目定義案

A案 7メッセージ種設定（仮ASN×1 + ASN×6）

A-1. 仮ASNデータは、1メッセージ種定義する。

A-2. ASNデータは、ASNレベル1～3×鮮度管理要否ごとに合計6メッセージ種定義する。

鮮度管理要否商品は別メッセージ種でのデータ交換が必要となる。

A-3. VAN会社にて以下システム定義にてバリデーションチェックを行う。

メッセージ種	システム定義（バリデーションチェック）			運用定義		
	商品鮮度日付	便No.	パレット管理No.	商品鮮度日付	便No.	パレット管理No.
仮ASNデータ	任意	任意	任意	任意	任意	任意
ASNデータ・レベル1・鮮度不要商品	任意	任意	任意	なし	任意	任意
ASNデータ・レベル1・鮮度要商品	必須	任意	任意	必須	任意	任意
ASNデータ・レベル2・鮮度不要商品	任意	必須	任意	なし	必須	任意
ASNデータ・レベル2・鮮度要商品	必須	必須	任意	必須	必須	任意
ASNデータ・レベル3・鮮度不要商品	任意	必須	必須	なし	必須	必須
ASNデータ・レベル3・鮮度要商品	必須	必須	必須	必須	必須	必須

10. 新メッセージ種

◆ 仮ASNデータとASNデータにおけるメッセージ種と項目定義案

B案 4メッセージ種設定（仮ASN×1 + ASN×3）

- B-1. 仮ASNデータは、1メッセージ種定義する。
- B-2. ASNデータは、ASNレベルごとに合計3メッセージ種定義する。
鮮度管理要否商品は別メッセージ種でのデータ交換は不要。
- B-3. VAN会社にて以下システム定義にてバリデーションチェックを行う。
商品鮮度日付の値チェックは、必要に応じて受信企業にて実施。

メッセージ種	システム定義（バリデーションチェック）			運用定義		
	商品鮮度日付	便No.	パレット管理No.	商品鮮度日付	便No.	パレット管理No.
仮ASNデータ	任意	任意	任意	任意	任意	任意
ASNデータ・レベル1	任意	任意	任意	なし／必須	任意	任意
ASNデータ・レベル2	任意	必須	任意	なし／必須	必須	任意
ASNデータ・レベル3	任意	必須	必須	なし／必須	必須	必須

10. 新メッセージ種

◆ 仮ASNデータとASNデータにおけるメッセージ種と項目定義案

C案 2メッセージ種設定（仮ASN×1 + ASN×1）

C-1. 仮ASNデータは、1メッセージ種定義する。

C-2. ASNデータも、1メッセージ種定義する。

鮮度管理要否商品は別メッセージ種でのデータ交換は不要。

C-3. ASNデータに、ASNレベル項目を定義する。

C-4. VAN会社にて以下システム定義にてバリデーションチェックを行う。

商品鮮度日付、便No.、パレット管理No.の値チェックは、必要に応じて受信企業にて実施。

メッセージ種	システム定義（バリデーションチェック）			運用定義		
	商品鮮度日付	便No.	パレット管理No.	商品鮮度日付	便No.	パレット管理No.
仮ASNデータ	任意	任意	任意	任意	任意	任意
ASNデータ	任意	任意	任意	なし／必須	任意／必須	任意／必須

10. 新メッセージ種

◆ 仮ASNデータとASNデータにおけるメッセージ種と項目定義案

D案 1メッセージ種設定（仮ASN & ASN×1）

- D-1. 仮ASNデータ & ASNデータで、1メッセージ種定義する。
- D-2. 仮ASN & ASNデータに、ASNレベル項目を定義する。
- D-3. VAN会社にて以下システム定義にてバリデーションチェックを行う。

商品鮮度日付、便No.、パレット管理No.の値チェックは、必要に応じて受信企業にて実施。

メッセージ種	システム定義（バリデーションチェック）			運用定義		
	商品鮮度日付	便No.	パレット管理No.	商品鮮度日付	便No.	パレット管理No.
仮ASN & ASNデータ	任意	任意	任意	なし / 必須	任意 / 必須	任意 / 必須

10. 新メッセージ種

3. 各社様ご意見 1) データ種案：

案	A	B	C	D	コメント
A案					
B案					
C案			3		
D案				2	
B案 or C案		1			
C案 or D案			3		
B案 or C案 or D案		1			強いて言えばC案

2) 仮ASNデータ名称案：欠品EDI、受注回答データ、発注受領データ

4. 本日方針案

- 1) 発注データを、「発注メッセージ」として定義する。
日食協・受発注データ、e-お菓子ねっと・発注データを項目検討対象とする。
- 2) 仮ASNデータを、「受注回答メッセージ」として定義する。
日食協・事前出荷情報（ASN）データ、e-お菓子ねっと・在庫予定データを項目検討対象とする。
- 3) ASNデータを、「事前出荷メッセージ」として定義する。
日食協・事前出荷情報（ASN）データ、e-お菓子ねっと・在庫予定データを項目検討対象とする。

11. メッセージ別定義一覧

1. 検討テーマ メッセージ別定義一覧作成

2. 本日方針案

メッセージ名称		定義	伝達方向			対象業務プロセス	備考
1	発注メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 卸企業がメーカーに商品を発注するために使用するメッセージ。 メーカーはこのメッセージをもって受注する。予定発注ではなく、商品や数量が確定した発注である。また、取引形態は買取取引となる。卸企業側は発注メッセージで取引番号を付番する。この取引番号は事前出荷メッセージまで引き継がれていく。 	卸企業	→	メーカー	メーカー卸間受発注型業務プロセス	
2	受注回答メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> メーカーが卸企業に、受注後の出荷予定数量を伝えるために使用するメッセージ。 卸企業はこのメッセージを元に、入荷予定情報の更新を行う。 受注回答メッセージは、発注メッセージでセットされた取引番号や次店コード、商品コード等を引き継いだ上で、出荷数量に関する情報を付加したものである。 	卸企業	←	メーカー	メーカー卸間受発注型業務プロセス	
3	事前出荷メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> メーカーが卸企業に、事前に出荷明細情報を伝えるために使用するメッセージ。 卸企業はこのメッセージの内容と、実際の入荷内容を突き合わせて検品を行う。 事前出荷メッセージは、発注メッセージでセットされた取引番号や次店コード、商品コード等を引き継いだ上で、出荷数量、商品鮮度日付、便No.、パレット管理No.に関する情報を付加したものである。 (事前出荷レベル、運用詳細については別紙参照) 	卸企業	←	メーカー	メーカー卸間受発注型業務プロセス	

※前回からの変更点

- ・「発注メッセージ」定義に記載していた引き継ぎメッセージを「受領メッセージ」から「事前出荷メッセージ」までに変更
- ・「受注回答メッセージ」を追加
- ・「受領メッセージ」を削除

IV. BMSに関する技術基盤検討

1. 受注回答&事前出荷メッセージ 送受信運用

1. 基本運用案（次頁以降の詳細検討を行う上での前提として案を整理）

ガイドライン

①卸からの発注に対して、メーカー側が送信する受注回答メッセージや事前出荷メッセージについて、送信元企業、送信回数、欠品や分納が発生した場合の送受信ルール、再発注ルール等を運用ガイドラインとしてまとめておく。

送信企業

②受注回答メッセージ及び事前出荷メッセージは、メーカーが卸に対して送信するデータであるが、メーカーが業務を委託している企業がメーカーの代わりにデータを送信することも可とする。

送信回数

- ③受注回答メッセージは、1発注明細1回のみでの送信とする。
 ④事前出荷メッセージは、1発注明細に対して各レベル1回のみでの送信とし、レベルが異なる場合は複数回の送信を可とする。
 ⑤受注回答メッセージ及び事前出荷メッセージにおける送受信運用回数や送受信順、送受信時間は、メーカー⇔卸間で検討した上でデータ送受信運用を開始する。

引継項目

⑥メーカー若しくはメーカー業務受託企業は、卸からの発注メッセージをターンアラウンドして、受注回答メッセージや事前出荷メッセージを送信する。
 ※発注メッセージから受注回答メッセージ及び事前出荷メッセージへの引き継ぎ項目や必須・任意定義は今後検討とする。

項目定義

- ⑦数量 受注回答メッセージ：発注数量、出荷数量、欠品数量を必須項目として定義する。
 事前出荷メッセージ：出荷数量を必須項目として定義する。
 ⑧商品鮮度日付 受注回答メッセージ：複数回出現可能任意項目として定義する。
 事前出荷メッセージ：任意項目として定義する。
 ⑨便No. 受注回答メッセージ：定義しない。
 事前出荷メッセージ：任意項目として定義する。
 ⑩パレット管理No. 受注回答メッセージ：定義しない。
 事前出荷メッセージ：任意項目として定義する。

※上記以外の詳細検討は今後実施する。

1. 受注回答&事前出荷メッセージ 送受信運用

◆送受信運用回数整理

⑤受注回答メッセージ及び事前出荷メッセージにおける送受信運用回数や送受信順、送受信時間は、メーカー⇔卸間で検討した上でデータ送受信運用を開始する。

パターン		受注回答	事前出荷・レベル1	事前出荷・レベル2	事前出荷・レベル3	
1	1回	受注回答	送信1	-	-	
2		事前出荷	-	送信1	-	
3		事前出荷	-	-	送信1	
4		事前出荷	-	-	-	送信1
5	2回	受注回答→事前出荷	送信1	送信2	-	
6		受注回答→事前出荷	送信1	-	送信2	
7		受注回答→事前出荷	送信1	-	-	送信2
8		事前出荷×2	-	送信1	送信2	-
9		事前出荷×2	-	送信1	-	送信2
10		事前出荷×2	-	-	送信1	送信2
11	3回	受注回答→事前出荷×2	送信1	送信2	送信3	
12		受注回答→事前出荷×2	送信1	送信2	-	送信3
13		受注回答→事前出荷×2	送信1	-	送信2	送信3
14		事前出荷×3	-	送信1	送信2	送信3
15	4回	受注回答→事前出荷×3	送信1	送信2	送信3	送信4

1. 受注回答&事前出荷メッセージ 送受信運用

2. パターン別ルール案

①完全入荷パターン

卸発注				
伝票No.	行No.	入荷日	商品	数量
001	1	4/21	A	8ケース

メーカー納品					
入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量
4/21	A	1	PL-1	9/10	8ケース

案	発注メッセージを元に、発注数量、出荷数量、欠品数量をセットして送信する 商品鮮度日付をセットする場合は、商品鮮度日別に数量をセットする（※1）										
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	発注	出荷	欠品	鮮度日	数量	備考
受注回答メッセージ	001	1	4/21	A	8ケース	8ケース	0ケース	※1	※1		

案	発注メッセージを元に、出荷数量をセットして送信する										
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量	備考	
事前出荷・レベル1	001	1	4/21	A	-	-	9/10	8ケース			
事前出荷・レベル2	001	1	4/21	A	1	-	9/10	8ケース			
事前出荷・レベル3	001	1	4/21	A	1	PL-1	9/10	8ケース			

1. 受注回答&事前出荷メッセージ 送受信運用

2. パターン別ルール案

②一部数量欠品（分納無し）

卸発注				
伝票No.	行No.	入荷日	商品	数量
001	1	4/21	A	8ケース

メーカー納品					
入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量
4/21	A	1	PL-1	9/10	5ケース

案	発注メッセージを元に、発注数量、出荷数量、欠品数量をセットして送信する 商品鮮度日付をセットする場合は、商品鮮度日別に数量をセットする（※1）										
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	発注	出荷	欠品	鮮度日	数量	備考
受注回答メッセージ	001	1	4/21	A	8ケース	5ケース	3ケース	※1	※1		

案	発注メッセージを元に、出荷数量をセットして送信する										
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量	備考	
事前出荷・レベル1	001	1	4/21	A	-	-	9/10	5ケース			
事前出荷・レベル2	001	1	4/21	A	1	-	9/10	5ケース			
事前出荷・レベル3	001	1	4/21	A	1	PL-1	9/10	5ケース			

1. 受注回答&事前出荷メッセージ 送受信運用

2. パターン別ルール案

③全数量欠品（入荷無し）

卸発注				
伝票No.	行No.	入荷日	商品	数量
001	1	4/21	A	8ケース

メーカー納品					
入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量
4/21	A	1	PL-1	9/10	0ケース

案	発注メッセージを元に、発注数量、出荷数量、欠品数量をセットして送信する 商品鮮度日付をセットする場合は、商品鮮度日別に数量をセットする（※1）										
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	発注	出荷	欠品	鮮度日	数量	備考
受注回答メッセージ	001	1	4/21	A	8ケース	0ケース	8ケース	※1	※1		

案	当該発注明細に対しての事前出荷メッセージを送信する場合は、発注メッセージを元に、出荷数量（実際にはゼロ）をセットして送信する（※2） 当該発注明細に対しての事前出荷メッセージの送信自体なしでもよい										
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量	備考	
事前出荷・レベル1	001	1	4/21	A	-	-	9/10	0ケース	※2の場合		
事前出荷・レベル2	001	1	4/21	A	1	-	9/10	0ケース	※2の場合		
事前出荷・レベル3	001	1	4/21	A	1	PL-1	9/10	0ケース	※2の場合		

1. 受注回答&事前出荷メッセージ 送受信運用

2. パターン別ルール案

④複数パレットパターン

卸発注				
伝票No.	行No.	入荷日	商品	数量
001	1	4/21	A	8ケース

メーカー納品					
入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量
4/21	A	1	PL-1	9/10	5ケース
4/21	A	1	PL-2	9/10	3ケース

案	発注メッセージを元に、発注数量、出荷数量、欠品数量をセットして送信する 商品鮮度日付をセットする場合は、商品鮮度日別に数量をセットする（※1）										
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	発注	出荷	欠品	鮮度日	数量	備考
	受注回答メッセージ	001	1	4/21	A	8ケース	8ケース	0ケース	※1	※1	

案	発注メッセージを元に、出荷数量をセットして送信する レベル3は、運用上パレット管理No.セットが必須のため、パレット管理No.別に数量をセットして送信する									
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量	備考
	事前出荷・レベル1	001	1	4/21	A	-	-	9/10	8ケース	
	事前出荷・レベル2	001	1	4/21	A	1	-	9/10	8ケース	
	事前出荷・レベル3	001	1	4/21	A	1	PL-1	9/10	5ケース	
001		1	4/21	A	1	PL-2	9/10	3ケース		

1. 受注回答&事前出荷メッセージ 送受信運用

2. パターン別ルール案

⑤複数便パターン

卸発注				
伝票No.	行No.	入荷日	商品	数量
001	1	4/21	A	8ケース

メーカー納品					
入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量
4/21	A	1	PL-1	9/10	5ケース
4/21	A	2	PL-2	9/10	3ケース

案	発注メッセージを元に、発注数量、出荷数量、欠品数量をセットして送信する 商品鮮度日付をセットする場合は、商品鮮度日別に数量をセットする（※1）										
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	発注	出荷	欠品	鮮度日	数量	備考
	受注回答メッセージ	001	1	4/21	A	8ケース	8ケース	0ケース	※1	※1	

案	発注メッセージを元に、出荷数量をセットして送信する レベル2は、運用上便No.セットが必須のため、便No.別に数量をセットして送信する レベル3は、運用上便No.とパレット管理No.セットが必須のため、便No.・パレット管理No.別に数量をセットして送信する									
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量	備考
	事前出荷・レベル1	001	1	4/21	A	-	-	9/10	8ケース	
	事前出荷・レベル2	001	1	4/21	A	1	-	9/10	5ケース	
		001	1	4/21	A	2	-	9/10	3ケース	
	事前出荷・レベル3	001	1	4/21	A	1	PL-1	9/10	5ケース	
		001	1	4/21	A	2	PL-2	9/10	3ケース	

1. 受注回答&事前出荷メッセージ 送受信運用

2. パターン別ルール案

⑥複数商品鮮度日付パターン

卸発注				
伝票No.	行No.	入荷日	商品	数量
001	1	4/21	A	8ケース

メーカー納品					
入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量
4/21	A	1	PL-1	9/10	5ケース
4/21	A	1	PL-1	9/11	3ケース

案	発注メッセージを元に、発注数量、出荷数量、欠品数量をセットして送信する 商品鮮度日付をセットする場合は、商品鮮度日別に数量をセットする（※1、※2）										
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	発注	出荷	欠品	鮮度日	数量	備考
	受注回答メッセージ	001	1	4/21	A	8ケース	8ケース	0ケース	※1 ※2	※1 ※2	

案	発注メッセージを元に、出荷数量をセットして送信する レベル1,2,3共に、商品鮮度管理が必要な商品は、運用上商品鮮度日付セットが必須のため、商品鮮度日付別に数量をセットして送信する									
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量	備考
	事前出荷・レベル1	001	1	4/21	A	-	-	9/10	5ケース	
		001	1	4/21	A	-	-	9/11	3ケース	
	事前出荷・レベル2	001	1	4/21	A	1	-	9/10	5ケース	
		001	1	4/21	A	1	-	9/11	3ケース	
	事前出荷・レベル3	001	1	4/21	A	1	PL-1	9/10	5ケース	
		001	1	4/21	A	1	PL-1	9/11	3ケース	

1. 受注回答&事前出荷メッセージ 送受信運用

2. パターン別ルール案

⑦全数量 別入荷日パターン

卸発注				
伝票No.	行No.	入荷日	商品	数量
001	1	4/21	A	8ケース

メーカー納品					
入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量
4/22	A	1	PL-1	9/10	8ケース

案	発注メッセージを元に、入荷日を変更して、発注数量、出荷数量、欠品数量をセットして送信する 商品鮮度日付をセットする場合は、商品鮮度日別に数量をセットする（※1） 同一伝票No.（発注No.）の行割れを許容する（例. 1行目は4/22入荷、2行目は4/21入荷 等）									
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	発注	出荷	欠品	鮮度日	数量
受注回答メッセージ	001	1	4/22	A	8ケース	8ケース	0ケース	※1	※1	

案	発注メッセージを元に、入荷日を変更して、出荷数量をセットして送信する 同一伝票No.（発注No.）の行割れを許容する（例. 1行目は4/22入荷、2行目は4/21入荷 等）									
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量	備考
事前出荷・レベル1	001	1	4/22	A	-	-	9/10	8ケース		
事前出荷・レベル2	001	1	4/22	A	1	-	9/10	8ケース		
事前出荷・レベル3	001	1	4/22	A	1	PL-1	9/10	8ケース		

1. 受注回答&事前出荷メッセージ 送受信運用

2. パターン別ルール案

⑧一部数量 別入荷日パターン

卸発注				
伝票No.	行No.	入荷日	商品	数量
001	1	4/21	A	8ケース

メーカー納品					
入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量
4/21	A	1	PL-1	9/10	5ケース
4/22	A	2	PL-2	9/10	3ケース

案	1日目入荷日分のみ、発注メッセージを元に、発注数量、出荷数量、欠品数量をセットして送信する その際に欠品数量に値をセットして送信する 商品鮮度日付をセットする場合は、商品鮮度日別に数量をセットする（※1） 2日目入荷日分は、卸からの再発注とするため、メーカーからの受注回答メッセージの送信も行わない 2日目入荷日の発注は取り消される									
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	発注	出荷	欠品	鮮度日	数量
受注回答メッセージ	001	1	4/21	A	8ケース	5ケース	3ケース	※1	※1	

案	1日目入荷日分のみ、発注メッセージを元に、出荷数量をセットして送信する 2日目入荷日分は、卸からの再発注とするため、メーカーからの事前出荷メッセージの送信も行わない 2日目入荷日の発注は取り消される									
	データ	伝票No.	行No.	入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量	備考
事前出荷・レベル1	001	1	4/21	A	-	-	9/10	5ケース		
事前出荷・レベル2	001	1	4/21	A	1	-	9/10	5ケース		
事前出荷・レベル3	001	1	4/21	A	1	PL-1	9/10	5ケース		

1. 受注回答&事前出荷メッセージ 送受信運用

2. パターン別ルール案

⑨全数量 別商品パターン

卸発注				
伝票No.	行No.	入荷日	商品	数量
001	1	4/21	A	8ケース

メーカー納品					
入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量
4/21	B	1	PL-1	9/10	8ケース

受注回答メッセージ及び事前出荷メッセージにおける商品コード項目検討後に、
改めて受注回答メッセージ及び事前出荷メッセージの送受信運用の検討を行うこととする

1. 受注回答&事前出荷メッセージ 送受信運用

2. パターン別ルール案

⑩一部数量 別商品パターン

卸発注				
伝票No.	行No.	入荷日	商品	数量
001	1	4/21	A	8ケース

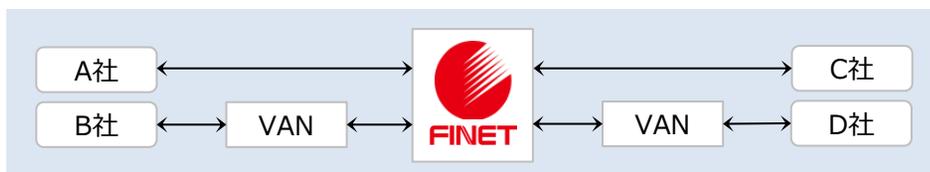
メーカー納品					
入荷日	商品	便	パレット	鮮度日	数量
4/21	A	1	PL-1	9/10	5ケース
4/21	B	1	PL-1	9/10	3ケース

受注回答メッセージ及び事前出荷メッセージにおける商品コード項目検討後に、改めて受注回答メッセージ及び事前出荷メッセージの送受信運用の検討を行うこととする

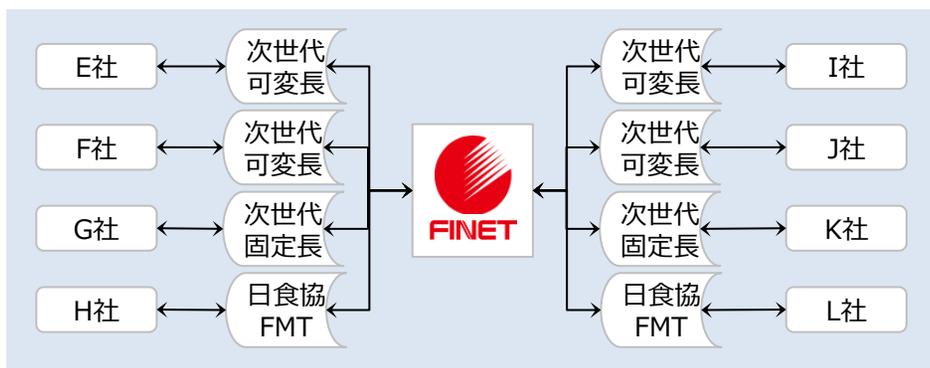
2. VAN機能

◆検討前整理

- ・ 現在加工食品におけるメーカー⇔卸間のデータ連携のHUB機能を担って頂いているファイネット社に対して、次世代EDI普及推進に必要な機能の構築を依頼することを想定してVAN検討を行う。
- ・ 検討前整理現在ファイネット社と直接EDI連携している企業とVAN会社を経由してEDI連携している企業がある。



- ・ 次世代EDIはXML形式にてフォーマット・項目定義を行うが、次世代EDIの固定長や可変長フォーマットを検討しておく必要がある。また日食協フォーマットにてEDI連携を継続する企業もある。



- ・ EDI連携が出来ない企業に対しても、業界として検品レスや伝票レスの取り組みを推進する施策を検討する必要がある。

2. VAN機能

◆ファイネット社保有機能やサービスの一例

①主なマスタ		
No.	名称	説明
1	ステーション	A～、M～ 等
2	企業	ステーションマスタを集約するマスタ（例. Axxxxx、Ayyyyyは、国分 等）
3	関係	送信元と送信先の関係性を保持
4	担当者	エラーが発生した場合の連絡先
5	統一取引先	8桁取引先コード、WebEDI画面入力で提供企業コード等にセットする際に使用
6	その他	主にWebEDIにて使用しているマスタ等

②Host接続		
No.	項目	説明
1	通信手順	JX、ebXML MS2.0、AS2、SFTP、全銀TCP/IP（専用線接続時のみ）、FTP（専用線接続時のみ）
2	伝送FMT	固定長、可変長、可変長フラットファイル ※可変長はCSVとTSV

③WebEDI		
No.	名称	説明
1	メーカー画面	受発注、出荷案内、販促金請求、販売実績 ・ 入力画面 : 出荷案内、販促金請求 ・ CSVアップロード : 出荷案内、販促金請求
2	卸画面	受発注、出荷案内、販売実績 ・ 入力画面 : 受発注 ・ CSVアップロード : 受発注、販売実績
3	UL・DL-FMT	可変長・標準、可変長・簡易、可変長・自由

④項目チェック		
No.	項目名	説明
1	データ種別	通信上のデータ種別と項目内のデータ種別のチェック
2	データ送信元センターコード	関係マスタチェック
3	最終送信先コード	関係マスタチェック
4	シリアルNo.	レコード連番になっていることをチェック

⑤その他		
No.	項目	説明
1	フォーマット変換	Host接続、WebEDIの各フォーマット（入力画面含む）間の変換サービス有り
2	文字コード変換	以下文字コードの変換サービス事例有り（ANK文字のみや禁則文字の調整有り） ASCII、SHIFT-JIS、EBCDIC、JEFコード 他（UTF-8は事例無し）

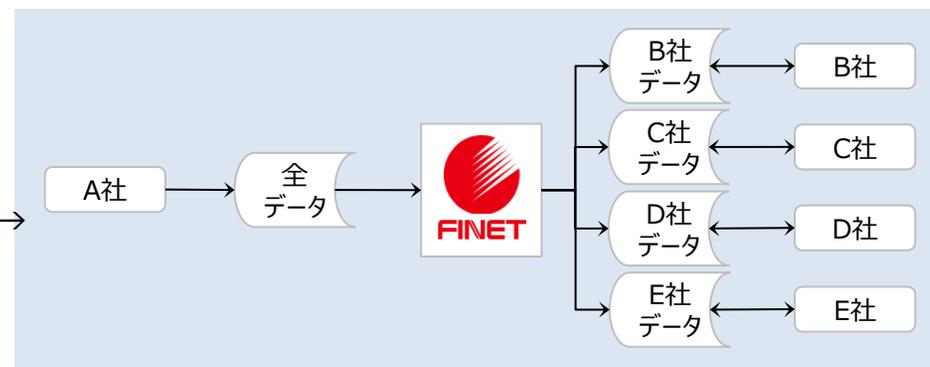
2. VAN機能

1. VAN機能概要案

1. EDI連携関連 (Host接続サービス)

- 1) 通信手順
- 2) データ振分機能

現行同等機能
単独配信機能
複数個所配信機能



2. WebEDI関連

- 1) 参照画面
- 2) リスト印刷機能
- 3) データダウンロード機能 (CSV、TSV他)
- 4) 入力機能
- 5) 返信入力画面 (受発注に対して事前出荷データを返信する機能等)
- 6) データアップロード機能 (CSV、TSV他)

3. 共通/課題/その他

- 1) バリデーションチェック/エラー通知機能
- 2) フォーマット変換機能
- 3) 文字コード変換機能
- 4) 次世代EDI・BMS全般管理業務

3. 項目定義

1. 既存項目詳細検討パターン

既存日食協フォーマットとe-お菓子ねっとにて定義されている項目は、次世代EDIでも項目としては定義する前提としている。既存項目をいくつかのグループに分類し、そのグループごとに次世代EDIにおける項目定義の詳細の検討を行っていく。

次頁以降で以下既存定義項目のグルーピングと詳細検討パターン案を整理

○日食協フォーマット 受発注データ Version3	73項目
○日食協フォーマット 受発注データ Version2	85項目
○日食協フォーマット 事前出荷情報データ Version1	73項目
○e-お菓子ねっと 発注データ V2	117項目
○e-お菓子ねっと 在庫予定データ V2	151項目
(合計)	499項目

No.	パターン	内容
①	統合移行	両フォーマットで同じ意味を持つ項目の付け合わせを行った後、属性や桁数を確認して、次世代EDIにおける「タイプ」、「XMLデータ型」、「桁数」を定義する。
②	全角／半角定義	両フォーマットで同じ意味を持つ項目の付け合わせを行った後、属性や桁数を確認して、次世代EDIにおける「タイプ」、「XMLデータ型」、「桁数」を定義する。 なお日本語がセットされる項目については、全角項目と半角項目を定義していく。
③	コードリスト	両フォーマットで同じ意味を持つ項目の付け合わせを行った後、次世代EDIではコードリストとして定義する。
④	VAN機能検討	現フォーマットと次世代EDIフォーマットの相互変換時にデータ生成が必要となるため、VAN機能にて検討する。
⑤	個別検討	両フォーマットで同じ意味を持つ項目の付け合わせを行った後、次世代EDIとしての項目は個別に検討する。
⑥	項目定義なし	次世代EDIでは項目定義は行わない

3. 項目定義

2. 既存項目分類と分類別詳細検討パターン

(①統合移行、②全角／半角定義、③コードリスト、④VAN機能検討、⑤個別検討、⑥項目定義なし)

No.	分類		日食協			菓子		合計 項目 数	項目名		詳細検討 パターン案
	大	小	発注 V3	発注 V2	出荷 V1	発注 V2	入予 V2		日食協	菓子	
1	システム 項目	データ種別	1	1	1	3	3	9	データ種別	データ種別	①
2	システム 項目	フォーマットバージョン	1	1	1			3	フォーマットバージョン		①
3	システム 項目	日食協その他	15	17	17			49	レコード区分 データシリアルNo. ファイルNo. 送信データ件数 レコードサイズ データ有無サイン レコード件数		④
4	システム 項目	菓子その他				5	5	10		レコード区分 送信ファイルNo. レコード件数	④

3. 項目定義

2. 既存項目分類と分類別詳細検討パターン

(①統合移行、②全角/半角定義、③コードリスト、④VAN機能検討、⑤個別検討、⑥項目定義なし)

No.	分類		日食協			菓子		合計 項目 数	項目名		詳細検討 パターン案
	大	小	発注 V3	発注 V2	出荷 V1	発注 V2	入予 V2		日食協	菓子	
5	日付時間 項目	データ日時	3	3	3	2	2	11	データ作成日付 データ作成時刻 データ処理日	データ作成日 データ作成時刻	①
6	日付時間 項目	発注日	1	1		1		3	発注日	発注日	①
7	日付時間 項目	納入日	1	1	2	1	3	8	納入日又は引取日 納品予定日	納品日/引取日 納品日 出荷日 着荷日	①
8	日付時間 項目	納入時間	1	1		2	1	5	納入希望時間	納入時間(自) 納入時間(至) 納入予定時間	①
9	日付時間 項目	鮮度日	2		2	4	6	14	入庫許容日付区分 入庫許容日付 商品鮮度日付 商品鮮度日付区分	卸最新在庫日付区分 卸最新在庫日付 入庫許容日付区分 入庫許容日付 実入庫製品日付区分 実入庫製品日付	⑤

3. 項目定義

2. 既存項目分類と分類別詳細検討パターン

(①統合移行、②全角／半角定義、③コードリスト、④VAN機能検討、⑤個別検討、⑥項目定義なし)

No.	分類		日食協			菓子		合計 項目 数	項目名		詳細検討 パターン案
	大	小	発注 V3	発注 V2	出荷 V1	発注 V2	入予 V2		日食協	菓子	
10	番号項目	卸発番	2	7	2	3	3	17	伝票番号 伝票行No.	卸発注伝票No. 明細行No. 卸発注行番号	①
11	番号項目	メーカー発番			2		2	4	メーカー出荷No. 製造ロット番号	メーカー伝票No. 製造ロット番号	①

3. 項目定義

2. 既存項目分類と分類別詳細検討パターン

(①統合移行、②全角／半角定義、③コードリスト、④VAN機能検討、⑤個別検討、⑥項目定義なし)

No.	分類		日食協			菓子		合計 項目 数	項目名		詳細検討 パターン案
	大	小	発注 V3	発注 V2	出荷 V1	発注 V2	入予 V2		日食協	菓子	
12	企業項目	企業識別コード	14	14	13	13	14	68	利用者企業コード(受手) メーカー送信元センターコード 最終送信先コード 直接送信宛先企業コード 提供企業コード 提供企業事業所コード 一次店コード 二次店コード 三次店コード 四次店コード 五次店コード 荷主コード	送信先コード 送信元コード 直接送信先コード 一次店コード 二次店コード 三次店コード 届け先コード チェーン店コード メーカーコード 倉庫コード	⑤
13	企業項目	企業名他	8	8	6	26	26	74	提供企業名 提供企業照会事業所名 伝票ヘッダー参照No. 社名・店名・取引先名 住所 電話番号 取引先対応コード 日本語区分 パレット情報参照No.	送信先名 送信元名 直接送信先名 漢字コード区分 一次店名 二次店名 三次店名 届け先名 チェーン店名 電話番号 住所 メーカー所属組織名 取引先区分 日本語区分 一次店カナ名 二次店カナ名 届け先カナ名	②

3. 項目定義

2. 既存項目分類と分類別詳細検討パターン

(①統合移行、②全角／半角定義、③コードリスト、④VAN機能検討、⑤個別検討、⑥項目定義なし)

No.	分類		日食協			菓子		合計 項目 数	項目名		詳細検討 パターン案
	大	小	発注 V3	発注 V2	出荷 V1	発注 V2	入予 V2		日食協	菓子	
14	商品項目	商品識別コード	2	3	4	2	3	14	商品コード使用区分 商品コード 商品コード(JANコード) 商品コード(メーカーPVコード) 商品コード(卸PVコード) 集合包装用商品コード	商品コード識別区分 品番 外箱GTIN(ITF)コード	⑤
15	商品項目	商品名	2	4	2	3	3	14	商品名 日本語区分	商品名 日本語区分(商品名) 商品名カナ	②
16	商品項目	商品分類コード				1	1	2		菓子業界商品分類コード	①

3. 項目定義

2. 既存項目分類と分類別詳細検討パターン

(①統合移行、②全角／半角定義、③コードリスト、④VAN機能検討、⑤個別検討、⑥項目定義なし)

No.	分類		日食協			菓子		合計 項目 数	項目名		詳細検討 パターン案
	大	小	発注 V3	発注 V2	出荷 V1	発注 V2	入予 V2		日食協	菓子	
17	取引項目	数量／金額	4	9	4	13	13	43	入数 数量 単位 価格(単位) 総バラ数量	包装区分 ボール内バラ数 ケース内ボール数 数量符号 ケース数量 ボール数量 バラ数量 卸店入価格 二次店納入価格 金額符号 卸店入金額 二次店納入金額 入荷単位ケース数	⑤
18	取引項目	伝票合計金額				4	4	8		伝票合計金額符号 伝票合計金額 二次店納入合計金額符号 二次店納入合計金額	①
19	取引項目	ファイル合計金額	3	3		2	2	10	生販金額合計 割戻金額合計 回収容器金額合計	合計金額符号 合計金額	⑥

3. 項目定義

2. 既存項目分類と分類別詳細検討パターン

(①統合移行、②全角／半角定義、③コードリスト、④VAN機能検討、⑤個別検討、⑥項目定義なし)

No.	分類		日食協			菓子		合計 項目 数	項目名		詳細検討 パターン案
	大	小	発注 V3	発注 V2	出荷 V1	発注 V2	入予 V2		日食協	菓子	
20	カウント 項目	伝票枚数				1	1	2		伝票枚数	①
21	カウント 項目	伝票明細行数				1	1	2		明細行数	①

3. 項目定義

2. 既存項目分類と分類別詳細検討パターン

(①統合移行、②全角／半角定義、③コードリスト、④VAN機能検討、⑤個別検討、⑥項目定義なし)

No.	分類		日食協			菓子		合計 項目 数	項目名		詳細検討 パターン案
	大	小	発注 V3	発注 V2	出荷 V1	発注 V2	入予 V2		日食協	菓子	
22	個別項目	物流／梱包			7			7	パレット管理No. 便No. 総商品アイテム数 共配有無 納入パレット総枚数 パレット管理No.区分 パレット種別		① 一部③
23	個別項目	消費税	1			2	2	5	消費税区分	消費税区分 消費税率	① 一部③
24	個別項目	下請法				4		4		下請法伝票表示区分 下請法伝票表示内容 下請法日本語区分 下請法支払期限	① 一部③
25	個別項目	専用伝票				3	3	6		専用伝票日付 専用伝票No. 専用伝票行No.	①

3. 項目定義

2. 既存項目分類と分類別詳細検討パターン

(①統合移行、②全角／半角定義、③コードリスト、④VAN機能検討、⑤個別検討、⑥項目定義なし)

No.	分類		日食協			菓子		合計 項目 数	項目名		詳細検討 パターン案
	大	小	発注 V3	発注 V2	出荷 V1	発注 V2	入予 V2		日食協	菓子	
26	個別項目	発注区分	1	1				2	データ区分		②
27	個別項目	手形区分	1	1				2	手形情報		②
28	個別項目	倉直区分	1	1		1	1	4	倉直区分	店入直送区分	②
29	個別項目	定期発注取消区分	1	1				2	定期発注取消サイン		②
30	個別項目	現物添付区分	1			1	1	3	現物添付フラグ	商品添付区分	②
31	個別項目	定特区分	1			1	1	3	特売区分	定番特売区分	②
32	個別項目	EOS発注区分			1			1	発注区分		②
33	個別項目	温度帯区分			1	1	1	3	温度帯区分	温度管理区分	②
34	個別項目	菓子取引区分				1	1	2		取引コード	②
35	個別項目	菓子伝票区分				1		1		伝票区分	②
36	個別項目	ロット不足運賃負担区分				1	1	2		ロット不足運賃負担区分	②
37	個別項目	納入単価表示区分				1		1		納入単価表示区分	②
38	個別項目	欠品区分					1	1		欠品区分	②
39	個別項目	金額計算区分					1	1		単価計算区分	②
40	個別項目	製品容器区分					1	1		製品容器区分	②

3. 項目定義

2. 既存項目分類と分類別詳細検討パターン

(①統合移行、②全角／半角定義、③コードリスト、④VAN機能検討、⑤個別検討、⑥項目定義なし)

No.	分類		日食協			菓子		合計 項目 数	項目名		詳細検討 パターン案
	大	小	発注 V3	発注 V2	出荷 V1	発注 V2	入予 V2		日食協	菓子	
41	自由使用 項目	ファイル単位レコード	2	2	2	2	2	10	余白	予備	⑤
42	自由使用 項目	伝票レコード	2	2		4	4	12	備考 余白	摘要 日本語区分(摘要) 摘要カナ ヘッダー予備	
43	自由使用 項目	伝票明細レコード	2	4		3	3	12	摘要 余白	摘要 日本語区分(摘要) 明細予備	
44	自由使用 項目	パレットレコード			2			2	余白		
45	自由使用 項目	パレット明細レコード			1			1	余白		

3. 項目定義

2. 既存項目分類と分類別詳細検討パターン

(①統合移行、②全角／半角定義、③コードリスト、④VAN機能検討、⑤個別検討、⑥項目定義なし)

No.	分類		日食協			菓子		合計 項目 数	項目名		詳細検討 パターン案
	大	小	発注 V3	発注 V2	出荷 V1	発注 V2	入予 V2		日食協	菓子	
46	その他 項目	菓子旧連携				4	4	8		連携エリア ヘッダー連携エリア 明細連携エリア	⑥
47	その他 項目	未使用					31	31		伝送区分 出荷報告以外区分 集計明細区分 請求締日 請求口座 請求支払区分 元伝年月日 元伝No. 登録店区分 割戻計算区分 割戻区分 割戻基準 割戻率/単価 割戻金額符号 割戻金額 割戻コード	⑥

3. 項目定義

◆既存項目個別検討

以降、3～7既存項目個別検討資料の見方の説明

レポート	No.	項目	属性	桁数
次世代EDIにおける項目定義案				

日食協	→	次世代
現日食協FMT→ 次世代EDIへの 変換仕様案		

お菓子	→	次世代
現eお菓子FMT→ 次世代EDIへの 変換仕様案		

レポート	No.	項目	属性	桁数	発注V3	発注V2	出荷V1
現日食協FMT定義					各データ種の 項目定義状況		

次世代	→	日食協
次世代EDI→ 現日食協FMTへの 変換仕様案		

レポート	No.	項目	属性	桁数	発注V2	入予V2
現eお菓子FMT定義					各データ種の 項目定義状況	

次世代	→	お菓子
次世代EDI→ 現eお菓子FMTへの 変換仕様案		

各データ種の項目定義状況

- ・ 日食協 ◎：必須、○：選択必須、△：任意
- ・ お菓子 ◎：システムの必須、○：業務的必須、空白：任意

3. 項目定義

3. 既存項目個別検討 日付時間項目 鮮度日

コード	No.	項目	属性	桁数
明細	J1	卸最新在庫日付区分	9	2
明細	J2	卸最新在庫日付	X	8
明細	J3	入庫許容日付区分	9	2
明細	J4	入庫許容日付	X	8
明細	J5	商品鮮度日付区分	9	2
明細	J6	商品鮮度日付（製造日）	X	8
明細	J7	商品鮮度日付（賞味期限）	X	8

日食協	→	次世代
		なし
		なし
		N1
		N2
		N4
		N3 or なし
		N3 or なし

お菓子	→	次世代
		K1
		K2
		K3
		K4
		K5
		K6 or なし
		K6 or なし

コード	No.	項目	属性	桁数	発注V3	発注V2	出荷V1
明細	N1	入庫許容日付区分	X	1	○	項目なし	項目なし
明細	N2	入庫許容日付	X	8	○	項目なし	項目なし
明細	N3	商品鮮度日付	X	8	項目なし	項目なし	◎
明細	N4	商品鮮度日付区分	X	1	項目なし	項目なし	◎

次世代	→	日食協
		J3
		J4
		J6 or J7
		J5

コード	No.	項目	属性	桁数	発注V2	入予V2
明細	K1	卸最新在庫日付区分	X	1		
明細	K2	卸最新在庫日付	9	8		
明細	K3	入庫許容日付区分	X	1		
明細	K4	入庫許容日付	9	8		
明細	K5	実在庫製品日付区分	X	1	項目なし	
明細	K6	実在庫製品日付	9	8	項目なし	

次世代	→	お菓子
		J1
		J2
		J3
		J4
		J5
		J6 or J7

- 1) J1、J3、J5は、コードリスト「00:未使用、01:製造日、02:賞味期限」とする
- 2) J6・J7商品鮮度日付は、N4・K5商品鮮度日付区分の値より判断して、J6かJ7の何れかに値をセットする

3. 項目定義

4. 既存項目個別検討 企業項目 企業識別コード

レコード	No.	項目	属性	桁数	日食協	→	次世代	お菓子	→	次世代
ファイルハッタ	J1	送信元コード	X	8			N2+N3			K2
ファイルハッタ	J2	送信先コード	X	8			N4+N5			K1
ファイルハッタ	J3	直接送信先コード	X	8			N6+N7			K3
ファイルハッタ	J4	追加送信先コード	X	8			新規			新規
ファイルハッタ	J5	利用者企業コード (受け手)	X	12			N1			なし
ファイルハッタ	J6	提供企業コード	X	12			N8			なし
ファイルハッタ	J7	提供企業事業所コード	X	12			N9			なし
伝票ハッタ	J8	一次店コード	X	13			N10			K6
伝票ハッタ	J9	二次店コード	X	13			N11			K7
伝票ハッタ	J10	三次店コード	X	13			N12			K8
伝票ハッタ	J11	四次店コード	X	13			N13			なし
伝票ハッタ	J12	五次店コード	X	13			N14			なし
伝票ハッタ	J13	届け先コード	X	13			なし			K9
伝票ハッタ	J14	チェーン店コード	X	13			なし			K10

- 1) J4追加送信先コードは、複数個所にデータ送信する際に使用する項目として新設する (VAN機能検討案記載)
- 2) J2、J4をファイネット社におけるデータ送信先としてBMS項目で定義する
- 3) J1→J2、J1→J4をファイネット社における関係性マスタチェックとなることを想定

3. 項目定義

4. 既存項目個別検討 企業項目 企業識別コード

レコード	No.	項目	属性	桁数	発注V3	発注V2	出荷V1	次世代	→	日食協
ファイルヘッダ	N1	利用者企業コード（受け手）	X	12	◎	◎	◎			J5
ファイルヘッダ	N2	データ送信元センターコード	X	6	◎	◎	◎			J1(1:6)
ファイルヘッダ	N3	データ送信元センターコード（予備）	X	2	△	△	△			J1(7:2)
ファイルヘッダ	N4	最終送信先コード	X	6	◎	◎	◎			J2(1:6)
ファイルヘッダ	N5	最終送信先ステーションアドレス	X	2	◎	◎	◎			J2(7:2)
ファイルヘッダ	N6	直接送信宛先企業コード	X	6	○	○	○			J3(1:6)
ファイルヘッダ	N7	直接送信宛先企業コードステーションアドレス	X	2	○	○	○			J3(7:2)
ファイルヘッダ	N8	提供企業コード	X	12	◎	◎	◎			J6
ファイルヘッダ	N9	提供企業事業所コード	X	12	○	○	○			J7
伝票ヘッダ	N10	一次店コード	X	12	◎	◎	◎			J8(1:12)
伝票ヘッダ	N11	二次店コード	X	12	○	○	◎			J9(1:12)
伝票ヘッダ	N12	三次店コード	X	12	○	○	△			J10(1:12)
伝票ヘッダ	N13	四次店コード	X	12	○	○	項目なし			J11(1:12)
伝票ヘッダ	N14	五次店コード	X	12	○	○	項目なし			J12(1:12)

3. 項目定義

4. 既存項目個別検討 企業項目 企業識別コード

レコード	No.	項目	属性	桁数	発注V2	入予V2
ファイルヘッダ	K1	送信先コード	9	8	◎	◎
ファイルヘッダ	K2	送信元コード	9	8	◎	◎
ファイルヘッダ	K3	直接送信先コード	9	8		
伝票ヘッダ	K4	送信先コード	9	8	◎	◎
伝票ヘッダ	K5	送信元コード	9	8	◎	◎
伝票ヘッダ	K6	一次店コード	X	13	◎	◎
伝票ヘッダ	K7	二次店コード	X	13		
伝票ヘッダ	K8	三次店コード	X	13		
伝票ヘッダ	K9	届け先コード	X	13	○	○
伝票ヘッダ	K10	チェーン店コード	X	13		
イント	K11	送信先コード	9	8	◎	◎
イント	K12	送信元コード	9	8	◎	◎

次世代	➡	お菓子
		J2
		J1
		J3
		J2
		J1
		J8
		J9
		J10
		J13
		J14
		J2
		J1

3. 項目定義

4. 既存項目個別検討 企業項目 企業識別コード

○次店コード標準利用項目定義について

一次店～五次店コードについて、現在の日食協FMTでは、以下のような利用方法となっている。

一次店～の欄の使用方法は、発注者、受注者双方で打合せの上使用する。

現日食協・eお菓子FMTにおける次店コード以外で、伝票ヘッダー項目に標準利用項目を定義する。

【日食協】一次店／二次店／三次店／四次店／五次店

2-6. ～10. 一次店～五次店コード
一次店～五次店コードの欄の使用方法は、発注者、受注者双方で打合せの上使用する。

(例)

①直送：A卸B支店 / C商店 / Dスーパー / △ / △
二次店帳合
届け先あり
→受注者の請求先
→A卸の請求先
→A卸の届先でC商店の請求先

②直送：A卸 / B支店 / C商店 / Dスーパー / △ / △
二次店帳合
届け先あり
→受注者の請求先
→A卸の届先でC商店の請求先
→A卸B支店の請求先

③倉入：A卸B支店 / △ / △ / △ / △ / △
一次店届け

④倉入：A卸 / B支店 / △ / △ / △ / △
一次店届け

⑤倉入：A卸B支店 / A卸B支店 / △ / △ / △ / △
一次店届け

⑥倉入：A卸B支店 / E倉庫 / △ / △ / △ / △
一次店
倉庫届け

直送・倉入れとも一次店欄にA卸の企業・事業所コード、二次店欄にA卸の請求先コードをセットする使い方と、一次店欄にA卸の企業コード、二次店欄にA卸の事業所コードを入れる使い方があり、いずれも発注者・受注者双方で打ち合わせの上、使用する。

双方に取り決められたコードの無い届先等に関しては、該当店コード欄に9～9を埋め、伝票ヘッダーオプションレコードを使用して店名情報を補充し、届先に関しては住所も同様とする。

プライベートコードを使用する場合には、コードの前に「P」をセットする。

(例) プライベートコードが「12345」の時
P 1 2 3 4 5 △ △ △ △ △ △ △ △ △ △

※ 一次店から五次店のコードセットは、原則として、次店間を詰めてセットする事とする。

現状、次店間を詰めておらず歯抜けでデータセットを行っている場合、受信側では、間の次店を個別でカットするプログラムが必要となるなど、個別のシステム対応が多く発生している。

(正しい使用例)

①直送：A卸B支店 / C商店 / Dスーパー / △ / △
二次店、三次店に値がセットされており、歯抜けの次店データがない

(適切ではない使用例)

①直送：A卸B支店 / △ / △ / △ / C商店 / Dスーパー
二次店、三次店に△がセットされており、間が詰まっていない

【お菓子】一次店／二次店／三次店／届け先／チェーン店

(22) 一次店コード (英数かけ13桁)	卸売業の請求取引先コード	[02100001]	V1/V2
(23) 二次店コード (英数かけ13桁)	直送する場合の二次店の取引先コード	[03510011]	V1/V2
(24) 三次店コード (英数かけ13桁)	直送する場合の三次店の取引先コード センター納品する場合のセンターの取引先コード (プライベートコード可)	[08510021] [1100]	V2
(25) 届け先コード (英数かけ13桁)	通常は、納品する届け先の取引先コード センター納品する場合は売上帰属支店の取引先コード	[02100001]	V1/V2
(26) チェーン店コード (英数かけ13桁)	店舗コード (プライベートコード可)	[1011]	V2

	<一次店>	<二次店>	<三次店>	<届け先>	(チェーン店)
・店入れ(倉入れ)	A卸売業			A卸売業	
・店入れ(卸支店倉入れ)	A卸売業			A卸B支店	
・店入れ(センター納品)	A卸売業		(納品センター)	A卸C支店	
・直送(二次店デポ納品)	A卸売業	C二次店		C二次店デポ	
・直送(三次店デポ納品)	A卸売業	C二次店	D三次店	D三次店デポ	
・直送(二次スーパー店舗)	A卸売業	C二次店		D二次スーパー	E店舗
・直送(二次スーパー店舗 (センター納品))	A卸売業	C二次店	(納品センター)	D二次スーパー	E店舗

3. 項目定義

5. 既存項目個別検討 商品項目 商品識別コード

レコード	No.	項目	属性	桁数
明細	J1	商品コード使用区分	9	2
明細	J2	商品コード	X	16
明細	J3	商品コード (JANコード)	X	16
明細	J4	商品コード (メーカープライベートコード)	X	16
明細	J5	商品コード (卸プライベートコード)	X	16
明細	J6	商品コード (GTINコード)	X	14

日食協	→	次世代
		N1
		N2
		N3
		N4
		N5
		N6

お菓子	→	次世代
		K1
		K2
		なし
		なし
		なし
		K3

レコード	No.	項目	属性	桁数	発注V3	発注V2	出荷V1
明細	N1	商品コード使用区分	X	1	◎	項目なし	項目なし
明細	N2	商品コード	X	16	◎	◎	項目なし
明細	N3	商品コード (JANコード)	X	13	項目なし	項目なし	◎
明細	N4	商品コード (メーカープライベートコード)	X	16	項目なし	項目なし	△
明細	N5	商品コード (卸プライベートコード)	X	16	項目なし	項目なし	△
明細	N6	集合包装用商品コード	X	14	項目なし	項目なし	△

次世代	→	日食協
		J1
		J2
		J3
		J4
		J5
		J6

レコード	No.	項目	属性	桁数	発注V2	入定V2
明細	K1	商品コード識別区分	X	1	○	○
明細	K2	品番	X	16	○	○
明細	K3	外箱GTIN(ITF)コード	X	14	項目なし	

次世代	→	お菓子
		J1
		J2
		J6

3. 項目定義

5. 既存項目個別検討 商品項目 商品識別コード

○商品コード使用区分について

日食協			次世代	
0	メーカーPVコード		00	メーカーPVコード
1	卸PVコード		01	卸PVコード
2	JAN+荷姿コード		02	JAN+荷姿コード
3	JANコード	→	03	JANコード
4	集合包装用商品コード		04	集合包装用商品コード
5	SDPコード		05	SDPコード
6	GTIN		06	GTIN

お菓子			次世代	
0	統一商品コード		07	菓子統一商品コード
1	ITFコード (14桁)		04	集合包装用商品コード
3	JANコード (13桁)	→	03	JANコード
4	JANコード (8桁)		03	JANコード
6	GTIN		06	GTIN

次世代			日食協	
00	メーカーPVコード		0	メーカーPVコード
01	卸PVコード		1	卸PVコード
02	JAN+荷姿コード		2	JAN+荷姿コード
03	JANコード	→	3	JANコード
04	集合包装用商品コード		4	集合包装用商品コード
05	SDPコード		5	SDPコード
06	GTIN		6	GTIN
07	菓子統一商品コード		1	卸PVコード (※1)

次世代			お菓子	
00	メーカーPVコード		0	統一商品コード (※1)
01	卸PVコード		0	統一商品コード (※1)
02	JAN+荷姿コード		0	統一商品コード (※1)
03	JANコード	→	3	JANコード (13桁)
			4	JANコード (8桁)
04	集合包装用商品コード		1	ITFコード (14桁)
05	SDPコード		0	統一商品コード (※1)
06	GTIN		6	GTIN
07	菓子統一商品コード		0	統一商品コード

- 1) J1商品コード使用区分はコードリストとして定義する
- 2) 次世代EDIからの適切な該当変換先がコードリストについては、日食協は「1：卸PVコード」、お菓子「0：統一商品コード」を変換先とする (※1)

3. 項目定義

6. 既存項目個別検討 取引項目 数量/金額

コード	No.	項目	属性	桁数	日食協	→	次世代	お菓子	→	次世代	詳細
明細	J1	発注単位	9	7			N1	右記参照			K1=1 → K2×K3 K1=2 → K2 K1=3 → 1固定
明細	J2	発注単位区分	X	2			N2	K1			
明細	J3	単位数量	9	7			N3	右記参照			K1=1 → K5 K1=2 → K6 K1=3 → K7
明細	J4	総バラ数量	9	10,2			N4	右記参照			K1=1 → K2×K3×K5 K1=2 → K2×K6 K1=3 → K7
明細	J5	入荷単位ケース数	9	2			-	K8			
明細	J6	ケース入数	9	4			-	右記参照			K2×K3
明細	J7	ボール入数	9	4,2			-	K3			
明細	J8	原単価	9	7,2			N5	K9			
明細	J9	原価金額	9	8			-	K11			
明細	J10	二次店納単価	9	7,2			-	K10			
明細	J11	二次店納価金額	9	8			-	K12			

3. 項目定義

6. 既存項目個別検討 取引項目 数量/金額

コード	No.	項目	属性	桁数	発注V3	発注V2	出荷V1
明細	N1	入数	9	4 or 5	◎9(4)	◎9(4)	◎9(5)
明細	N2	単位	X	1	◎	◎	◎
明細	N3	数量	9 or S9	5 or 7	◎9(5)	◎9(5)	◎S9(7)
明細	N4	総バラ数量	S9	10	項目なし	項目なし	◎
明細	N5	価格 (単位)	9	7,2	○	項目なし	項目なし

次世代	→	日食協
		J1
		J2
		J3
		J4
		J8

コード	No.	項目	属性	桁数	発注V2	入予V2
明細	K1	包装区分	9	1	○	◎
明細	K2	内容 ボール内バラ数	9	4,2	○	○
明細	K3	内容 ケース内ボール数	9	2	○	○
明細	K4	数量符号	X	1	○	○
明細	K5	数量 ケース数量	9	7	○	○
明細	K6	数量 ボール数量	9	7	○	○
明細	K7	数量 バラ数量	9	7,2	○	○
明細	K8	入荷単位ケース数	9	2		
明細	K9	単価 卸店入価格	9	6,2	○	○
明細	K10	単価 二次店納入価格	9	6,2		
明細	K11	金額符号	X	1	○	○
明細	K12	金額 卸店入金額	9	8	○	○
明細	K13	金額 二次店納入金額	9	8		

次世代	→	お菓子	詳細
		J2	
		J7	
		右記参照	J6/J7
		右記参照	△ or + 固定
		右記参照	J2=01→J3 J2≠01→ゼロ
		右記参照	J2=02→J3 J2≠02→ゼロ
		J4	
		J5	
		J8	
		J10	
		右記参照	△ or + 固定
		J9	
		J11	

3. 項目定義

6. 既存項目個別検討 取引項目 数量/金額

○発注単位区分について

既存フォーマット定義

FMT	データ	項目	定義
日食協	発注V3	単位	1: ケース 2: ボール 3: バラ 5: キログラム 7: グラム 8: ミリリットル 9: リットル
日食協	発注V2	単位	1: ケース 3: バラ
日食協	出荷V1	単位	1: ケース 2: ボール 3: バラ (個) 5: キログラム 7: グラム 8: ミリグラム 9: リットル
お菓子	共通	包装区分	1: ケース発注 2: ボール発注 3: バラ発注

次世代EDIコードリスト案

FMT	データ	項目	定義
次世代EDI	共通	発注単位区分	01: ケース 02: ボール 03: バラ 05: キログラム 07: グラム 08: ミリリットル 09: リットル

3. 項目定義

7. 既存項目個別検討 自由使用項目

○現「備考／余白／摘要／予備」項目について

現在、各社自由使用となっている備考や摘要項目及び余白・予備項目については、標準利用項目ではないため、そのまま次世代EDI項目としては定義しない。

次世代EDIでは、伝票ヘッダー、伝票明細にそれぞれ自由使用欄（全角・半角）を定義しておく。

既存フォーマット定義

日食協・受発注V3				
コード	項目	属性	桁数	条件
ファイルヘッダ	余白	X	2	
伝票ヘッダ	備考	X	34	△
伝票ヘッダ ^o	余白	X	1	△
明細	摘要	X	13	△
明細	余白	X	22	△
イント	余白	X	81	

日食協・受発注V2				
コード	項目	属性	桁数	条件
ファイルヘッダ	余白	X	2	
伝票ヘッダ	備考	X	35	△
伝票ヘッダ ^o	余白	X	1	△
明細	摘要	X	13	△
明細	余白	X	22	△
明細OP	余白	X	2	△
イント	余白	X	81	

日食協・事前出荷V1				
コード	項目	属性	桁数	条件
ファイルヘッダ	余白	X	2	
パレット	余白	X	16	
パレット ^o	余白	X	17	
明細OP	余白	X	58	△
イント	余白	X	114	

菓子・発注V2				
コード	項目	属性	桁数	利用
ファイルヘッダ	予備	X	1077	禁止
伝票ヘッダ	摘要	X/N	50	
伝票ヘッダ	摘要 ^o	X	30	
伝票ヘッダ	予備	X	30	禁止
明細	摘要	X/N	50	
明細	予備	X	155	禁止
イント	予備	X	1138	禁止

菓子・入庫予定V2				
コード	項目	属性	桁数	利用
ファイルヘッダ	予備	X	1077	禁止
伝票ヘッダ	摘要	X/N	50	
伝票ヘッダ	摘要 ^o	X	30	
伝票ヘッダ	予備	X	64	禁止
明細	摘要	X/N	50	
明細	予備	X	50	禁止
イント	予備	X	1138	禁止

3. 項目定義

8. 新設項目

No.	項目	コード	説明	発注	受注回答	事前出荷	企業
1	追加送信先	ファイルヘッダー	対象データを複数個所に送信したい時に、該当項目に追加送信先をセットすることで、ファイネット社にてコピー配信頂きたい。	○	○	○	国分グループ本社
2	ロケーション	伝票明細	ASNにロケーションを入れて送付いただき入荷する商品にロケーションラベルを貼付いただいて全くの検品レスを実現することが望ましい。	○	○	○	三井物産流通グループ
3	DC/TC区分	伝票明細	日配品等、自社倉庫入荷後、在庫格納が必要な商品と通過型商品の判別をするため、発注メッセージ～事前出荷メッセージまで当該情報をターンアラウンドしたい。	○	○	○	国分グループ本社
4	発注便	伝票ヘッダー	卸がメーカーに発注する際に指定する便。同一入荷予定日・同一商品であっても、荷物の塊を分けて納品頂きたい時に使用する。	○			国分グループ本社 日本アクセス
5	集約パターン	伝票ヘッダー	日配品等は、メーカーから倉庫全体の総量で納品頂くパターン、出荷企業毎の総量で納品頂くパターン、出荷企業の更に納品先センター毎に総量で納品頂くパターン、得意先店舗別に仕分けして納品頂くパターン等、様々なパターンが発生する。現在は発注データの次店コードのセット仕様にて、メーカー⇄卸間が個別に取り決めを行った上でデータ連携を行っている。データ項目として標準利用できる項目を設定したい。	○			国分グループ本社
6	実入荷日	伝票ヘッダー	日配品等は、卸倉庫（若しくは小売業専用センター）入荷後、在庫格納せずに通過品として店舗等に出荷される。現在日食協フォーマットで定義されている「納入日又は引取日」については、小売業納品日と同日をセットするケースや実際に倉庫に入荷する日付をセットするケース等、企業毎にさまざまである。日付項目を追加して、標準利用方法を定めたい。	○			国分グループ本社

3. 項目定義

9. その他検討事項

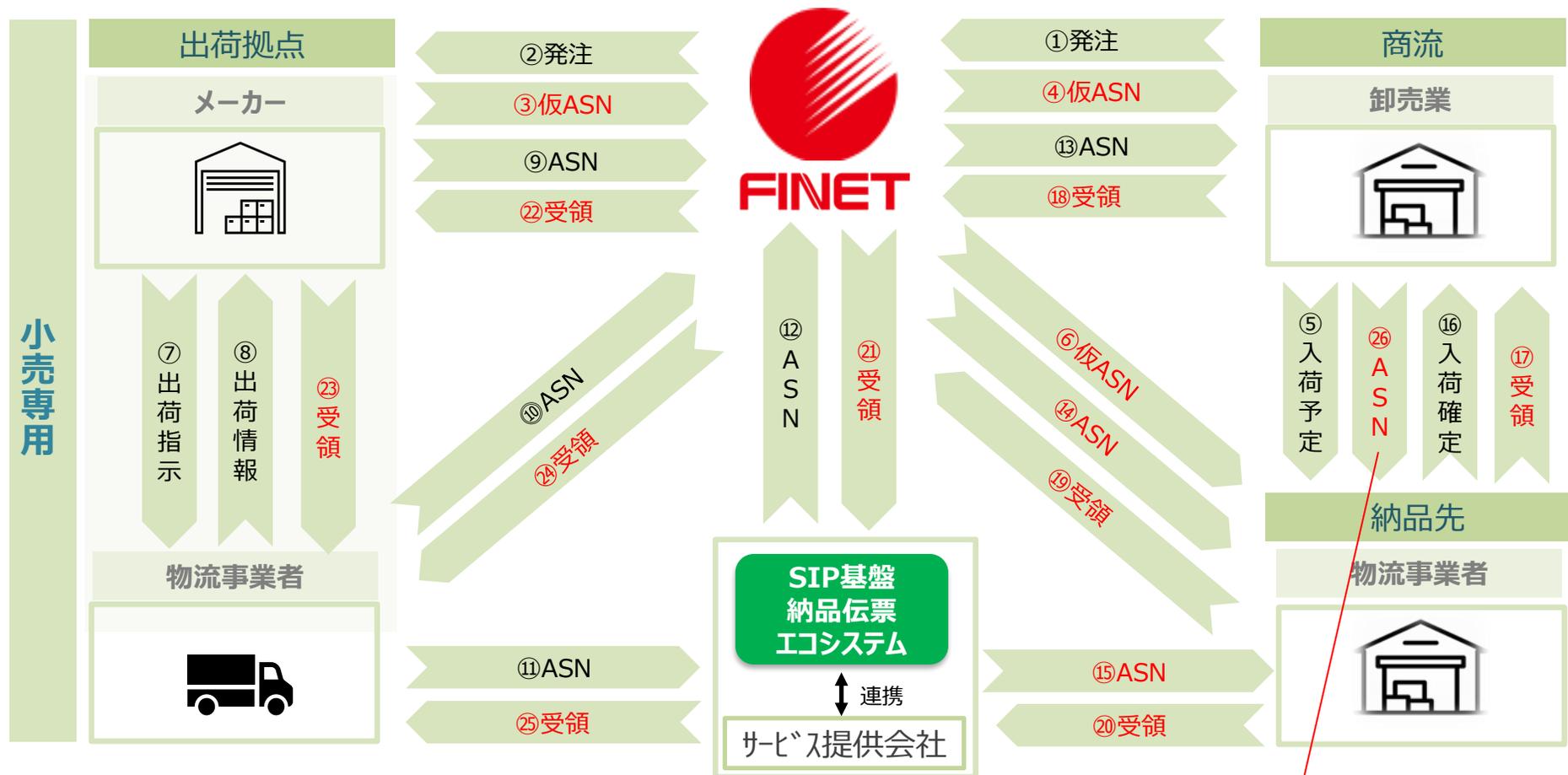
各社様よりご意見があれば、アンケートへの記載をお願いします。

- 例) ・ 商品識別コードの利用方法の標準化・明確化
 - ・ 未使用と思われる項目の整理
- 等々

V. 小売専用データ交換フロー検討

1. ASN運用におけるデータ交換イメージ（小売専用）

選択パターン
※小売在庫型専用センターの場合のみ検討

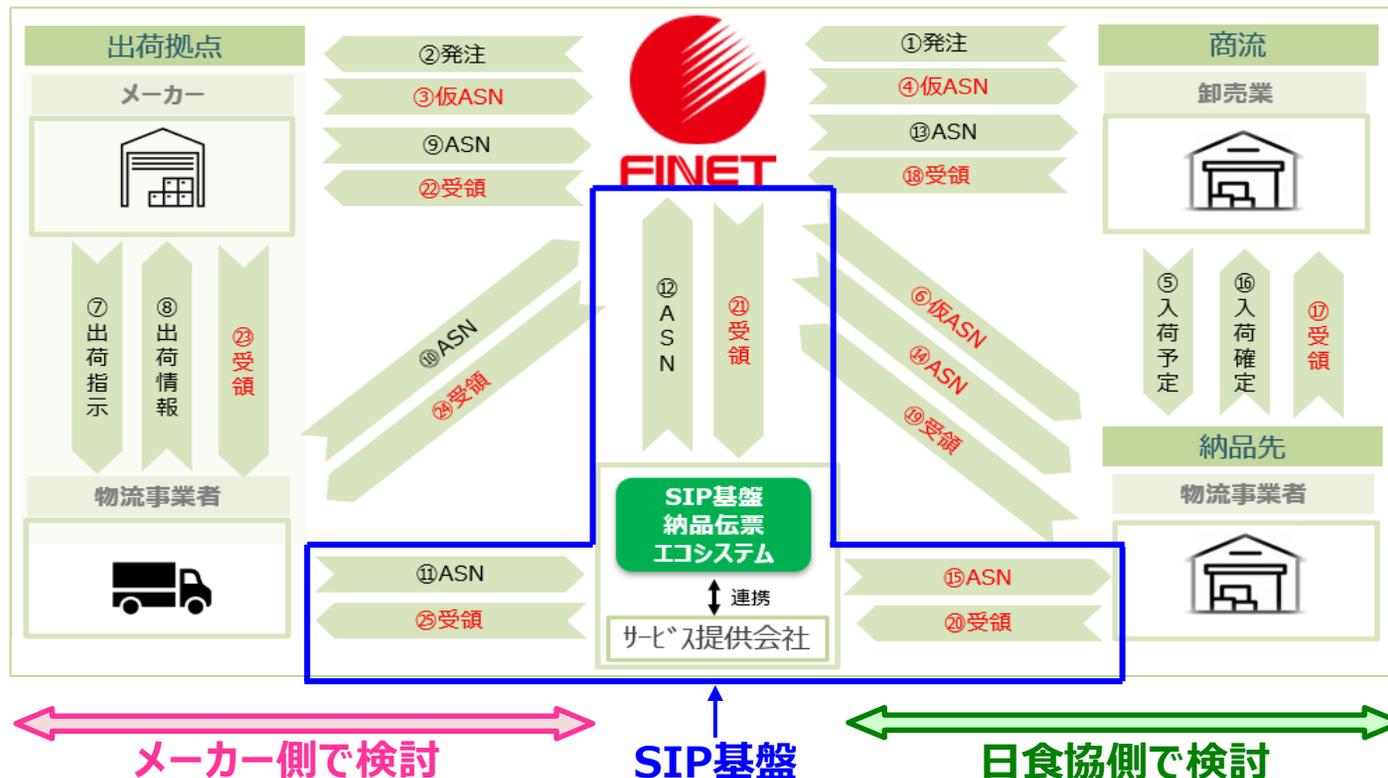


- 上記、受領を入れると煩雑化すると共にデータ料の課題も発生する。
- どこまでの範囲とするか（方針）

前回資料に追加

2. 全体検討方針

1. SIP基盤については、主にメーカー側の意見をお聞きし、必要に応じてSIP基盤との整合性（新たなメッセージ項目とSIP基盤のメッセージ項目の整合性）をとることを検討する。
また、利用する場合は、相対で利用することとする。
2. FINET社⇔メーカー間（物流事業者含む）のデータ交換フローは、メーカー側で検討を行う。
3. FINET社⇔卸売業間（物流事業者含む）のデータ交換フローは、日食協側で検討を行う。
4. 双方で検討した内容を次世代EDI協議会でデータ交換フローとして纏めることとする。
（ファイネット社のVAN機能検討へ）



3. 各社様ご意見

企業	SIP基盤	データ交換フロー
日食協	情報不足	各企業間のデータ交換の整理が必要 (要・不要、必須・任意)
メーカー	役割、メリット、VAN経由との違い ファイネット社との連携が必須	ASNデータの目的の再整理 受領データの目的の再整理 物流業者との協議が必要 各企業間のデータ交換の整理が必要 (要・不要、必須・任意) 検討する上でのガイドラインの設定は不要か

4. SIP基盤

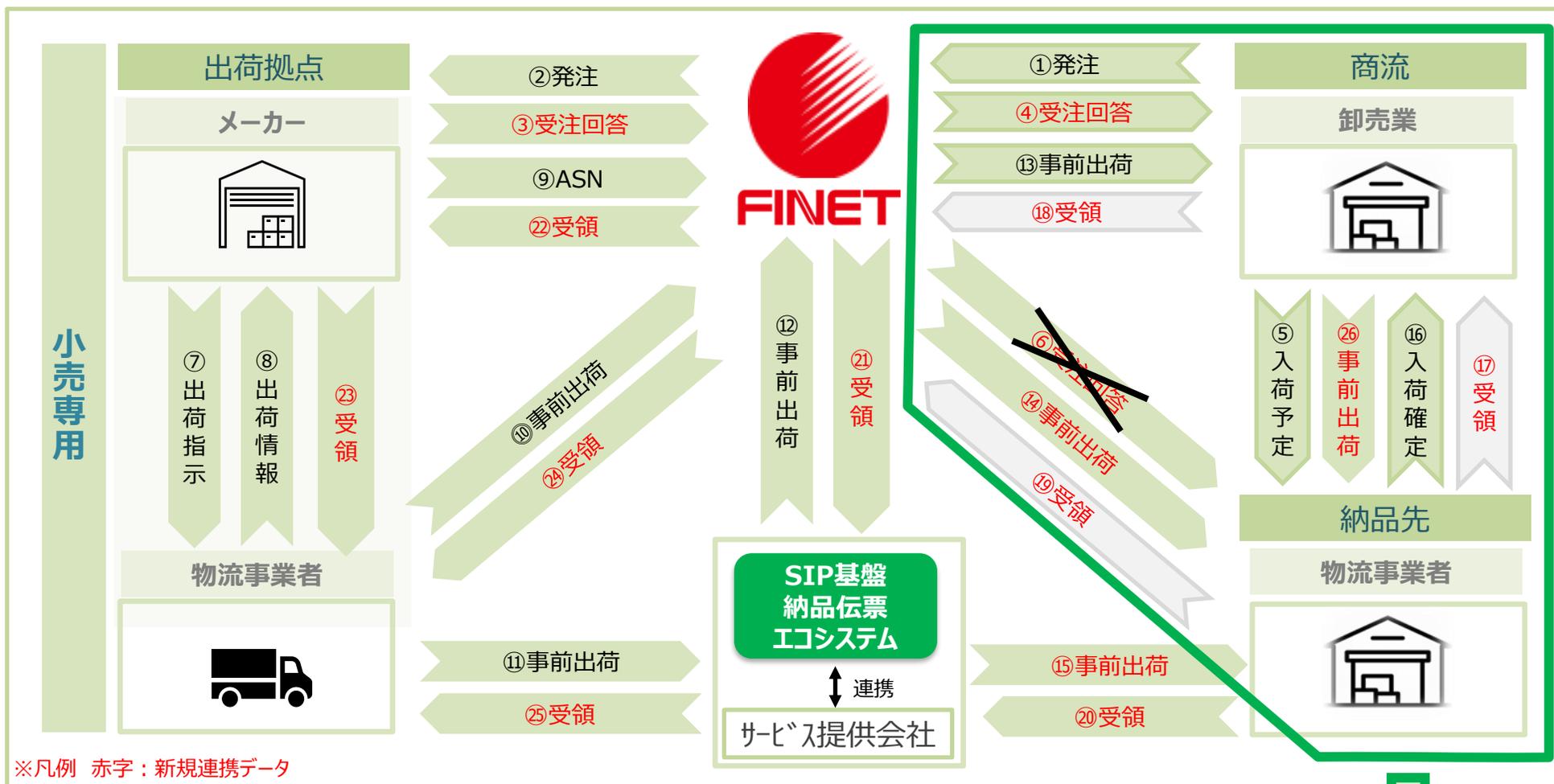
1. 位置付け

- SIP基盤とデータ連携するか否かは、メーカー・卸共に各社で判断した上で利用することは可能。
- ただし現時点で日食協では現行同様ファイネット社とのデータ連携を基本運用としている。
そのためメーカーとしてSIP基盤との連携が必要な場合は、ファイネット社とデータ連携して頂く必要がある。
- 小売専用センターとして、SIP基盤と連携が必要な場合も各社相対で判断の上利用する。
その場合は、各卸と小売専用センター相対で行うものとする（ファイネット社とのデータ連携の必要性含む）。

2. 受注回答メッセージ／事前出荷メッセージとの整合性

- SIP基盤・納品伝票エコシステム・納品伝票データ、にて設定されている項目は、全項目を次世代EDI項目として定義するのではなく、上記日食協フォーマット及びe-お菓子ねっとより定義される項目と相対する項目のみを次世代EDI項目とする。
- その他項目については、必要に応じて各種サービスを参照する運用とする。
参照するためのキー項目は定義しておく必要がある。

5. データ交換フロー 日食協側検討状況



- 1) ⑥受注回答メッセージは不要で決定
- 2) 事前出荷メッセージについては⑬⑭⑲の可否を継続検討中
- 3) 受領データについては検討保留

6. データ交換フロー メーカー側

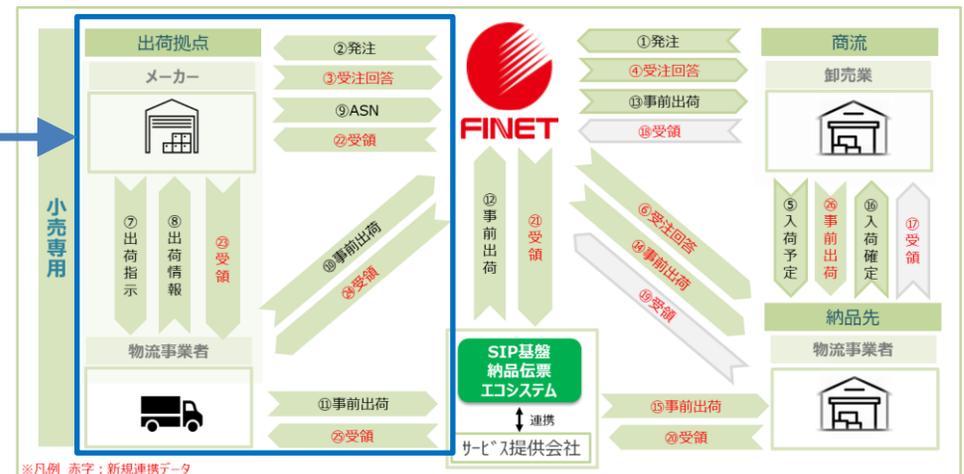
【 アンケートによるメーカーのご意見 】

大半が異議なし。

- ASN運用におけるデータ交換イメージ（小売専用）
 - ・ 線が多すぎてわかりづらいのでシンプル化の余地がある。
 - ・ 各社様（メーカー・物流事業者・卸）と協議を行い、データ連携パターンを構築する必要がある。
 - ・ ASNや受領データをこういった目的でどこまで送受信すればよいか良くわからない（メーカーからASNを送れなくても物流業者側で卸・小売向けに発信すればASNは可能という事？）
 - ・ 検討を進める中で不要なデータ交換パターンも出て来るのではないかと。個社の取り決めで活用しやすいよう、今後、必須・任意のパターンを決定する方が良いのではないかと。
- 全体検討方針
 - ・ SIP基盤の役割や利用メリットが良くわからない（VAN経由との違いは？）
 - ・ SIP基盤の利用をベースとする場合、ファイネット社でのSIP基盤との連携が確立される必要がある。また、メーカー側、日食協側で検討となっている部分についても何らかのガイドラインを設定する必要がある。

【 今後 】

メーカーとしてこれでよいか？
メーカーにてご検討ください。
また、ご意見ください。



VI. 協議会検討内容とスケジュール感

1. 進め方

1-1. BMSメッセージの作成検討

Step 1

(本年度)

物流（事前出荷情報（ASN）～受領の高度化）

卸・小売間に比べ遅れている卸・メーカー間の事前出荷（ASN）～受領に関する物流の高度化を図る

以下、既存流通BMSメッセージを参考に各業界VANフォーマットを含めて検討を行う。

- **物流：仮称-仮ASN(新規)、ASN(見直し)、受領(新規)**

※ ASNを実現する上で、必要に応じて受発注データの見直しを行う（新規）

Step 2

(本年度)

返品・返品受領のデータ化

他業界では実現している返品・返品受領のデータ化を行う

以下、既存流通BMSメッセージを参考に各業界VANフォーマットを含めて検討を行う。

- **物流：返品・返品受領(新規)**

Step 3

請求（出荷案内）の見直しと支払のデータ化

請求・支払のEDI化を推し進め、効率化と高度化を図る

以下、既存流通BMSメッセージを参考に各業界VANフォーマットを含めて検討を行う。

- **債権債務：請求（（出荷案内）見直し→新規）、支払（新規）**

1. 進め方

Step 4

出荷案内の定義見直し

メーカー・卸間で出荷案内の運用等に差異があるのを是正する

出荷案内の運用定義の見直しと日食協FMTと各業界VANフォーマットを参考にBMSメッセージを検討する。

- 出荷案内（見直し）

Step 5

残りの既存日食協フォーマットからBMSメッセージへの集約

残りの既存日食協フォーマットからBMSメッセージへの集約を推し進め、効率化と高度化を図る

日食協FMTと各業界VANフォーマットを参考にBMSメッセージを検討する。

- 残りの既存フォーマット（在庫、販売実績、販促金、その他）をBMSメッセージに集約し、標準化を図る

1-2. 運用指針の確認・検討

- ① ASN～受領に関しては、「事前出荷情報（ASN）の運用指針（案）」を基に、メーカーと卸で内容を再確認・再検討する。最終、「運用指針」、「ガイドライン」として纏める
※ 事前出荷情報（ASN）に関するASNレベル及び検品レスと伝票レスに関する運用指針は、DPC協議会におけるSBM会議⇔日食協ASN検討WGにて対応。
- ② ①以外のデータに関しては、各Stepを進める上で、運用指針を再確認・再検討し、次世代標準EDIの「運用指針」、「ガイドライン」として纏める

2. 検討事項

- メーカー・卸間の次世代標準EDIを策定する
- メーカー・卸間の事前出荷情報(ASN)～受領・返品・返品受領に関する標準EDIを検討する
 - ・ 先ずは、仮称-仮ASN・ASN～受領までを検討する
 - ・ 検討メッセージ：仮称-仮ASN、ASN、受領、返品・返品受領

1. 考え方・方針について（メーカー・卸間BMS運用）

全体接続・運用の考え方を検討し、次世代標準EDIの方針を決める。

2. BMSにする意義の明確化

BMSにする意味・利点等を明確にする（説明できる様にする）

3. 小売専用センター・卸外部倉庫（汎用以外）とのASN関連データ送受信形態

- ① メーカー・物流業者・卸・各センター間。
- ② メーカー→VAN→商流→納品先、メーカー→VAN→納品先等。

4. 業務プロセスの確認・検討

DPC（日食協⇔SBM）での運用検討を受け、系統的にASN～受領等に問題が無いのか、業務プロセスを検証・検討する。

2. 検討事項

5. 技術基盤の確認・検討

① メッセージ

- 仮称-仮ASN、ASN、受領メッセージの作成（優先）
 - ※ 受発注メッセージは、必要に応じて作成
 - ※ 返品・返品受領メッセージも検討する
- データ・マッピング
 - ✓ 日食協EDI・WGにて検討→（専門部会）→次世代EDI協議会
 - ✓ 日食協⇔流通BMSマッピングと追加項目の検討
 - ✓ SIPメッセージとのマッピング
 - ✓ 他業界VAN-FMT（プラネット、e-お菓子ねっと）とのマッピングと追加項目の検討

② データ形式

小売⇔卸間と同じXML形式で良いか確認・検討

③ 通信手段

小売⇔卸間と同じ「ebXML」か「JX」を基本で良いか確認・検討

2. 検討事項

6. VAN機能

実現するうえでのVAN機能の検討。

- ① 既存日食協FMTと新メッセージの相互変換
- ② SIPメッセージ、DL-FMTと既存日食協FMTと新メッセージの相互変換
- ③ 複数宛先への配信機能
- ④ EDI連携が出来ないメーカー向け機能（WEB-EDI等）
- ⑤ その他

7. ガイドライン

EDI運用に関するガイドラインの検討・作成。

8. 実証実験

- ① 実証実験参加企業の選出
- ② 実証実験の具現化

9. その他

酒類・加工食品業界として検討を進め、必要に応じて流通BMSに組み入れるかを検討する。
この場合、菓子（e-お菓子ねっと）・日雑（プラネット）との合意形成が必要。
なお、小売専用センター等の場合、統合したメッセージが望ましいと思われる。

再掲

3. 概要スケジュール

項目	2025年										2026年		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
次世代EDI協議会	幹事会 3/26 ▲	全体会 4/17 ▲	幹事会 5/30 ▲		幹事会 7/30 ▲		幹事会 9/24 ▲	全体会 10/28 ▲	幹事会 11/26 ▲		幹事会 1/29 ▲		全体会 未定 ▲
1.考え方・方針	→												
2.BMSの意義明確化	→												
3.小売センタ送受信			→										
4.ASN業務プロセス確認			→										
5.技術基盤の検討		→			→								
6.VAN機能検討				→					構築 →				
7.ガイドライン作成						→							
8.実証実験											→		
9.その他							→						
DPC ASN運用検討	→												
日食協 各部会検討	→										→		

Ⅶ. 各社様ご意見

1. 本日の説明ポイント

本日検討した内容についてのご意見を頂きたいをお願いします。

下記太字下線部について、8/15(金)までに事務局まで各社様のご意見をご提出下さい。

◎回答例

IV-1-1 : 異議なし

IV-1-2① : 新案 = ×××××

V-4 : 質問 = ××××× 等々

なお、V-5は卸様、V-6はメーカー様にてご意見をお願いします。

IV. BMSに関する技術基盤検討

IV-1. 受注回答&事前出荷メッセージ 送受信運用

IV-1-1. 基本運用案

IV-1-2. パターン別ルール案①

IV-1-2. パターン別ルール案②

IV-1-2. パターン別ルール案③

IV-1-2. パターン別ルール案④

IV-1-2. パターン別ルール案⑤

IV-1-2. パターン別ルール案⑥

IV-1-2. パターン別ルール案⑦

IV-1-2. パターン別ルール案⑧

IV-1-2. パターン別ルール案⑨

IV-1-2. パターン別ルール案⑩

IV-2. VAN機能

IV-2-1. VAN機能概要案

IV-3. 項目定義

IV-3-1. 既存項目詳細検討パターン

IV-3-2. 既存項目分類と分類別詳細検討パターン

IV-3-3. 既存項目個別検討 日付・時間項目 鮮度日

IV-3-4. 既存項目個別検討 企業項目 企業識別コード

IV-3-5. 既存項目個別検討 商品項目 商品識別コード

IV-3-6. 既存項目個別検討 取引項目 数量/金額

IV-3-7. 既存項目個別検討 自由使用項目

IV-3-8. 新設項目

IV-3-9. その他検討事項

V. 小売専用データ交換フロー検討

V-4. SIP基盤

V-5. データ交換フロー 日食協側

V-6. データ交換フロー メーカー側



 **一般社団法人 日本加工食品卸協会**

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町2-3-4 江戸ビル4階

電話 03-3241-6568

FAX 03-3241-1469

URL <http://nsk.c.ooco.jp/>



[九州・沖縄支部]

九州・沖縄支部の2025年度幹事会ならびに定時総会が7月7日（水）11時半よりANAクラウンプラザホテル福岡（福岡市博多区）にて開催された。

工藤支部長による開会挨拶の後議事に入り、以下の議案が審議された。
議案審議終了後、「取引慣行改善に係わる地域活動の実態報告」のテーマでコゲツ産業株式会社福岡支店次長の鶴英機氏より報告があり、続いて日食協本部、時岡専務理事より本部活動報告が行われた。

【2025年度九州・沖縄支部定時総会 要旨】

日 時	2025年7月7日（月）11:30AM
場 所	ANAクラウンプラザホテル福岡（福岡市博多区）
次 第	第1号議案 2024年度事業報告並びに収支決算書承認の件 第2号議案 2025年度事業計画並びに予算案承認の件
活動報告	取引慣行改善に係わる地域活動の実態報告
本部報告	日食協活動報告 時岡専務理事



定時総会 会場の模様



本部の活動報告をする時岡専務理事

[北海道支部]

北海道支部の2025年度常任幹事会、並びに定時総会が7月8日（木）札幌パークホテル（札幌市中央区）にて開催された。

当日は15時半より常任幹事会、16時半より定時総会の順で開催された。また定時総会に続いて懇談会が行われ、ワーキングメンバーによる支部活動状況報告に続いて時岡専務理事より本部活動報告が行われた。

【2025年度北海道支部定時総会 要旨】

- 日 時 2025年7月8日（月）16:30PM
場 所 札幌パークホテル（札幌市中央区）
次 第 第1号議案 2024年度 支部事業報告に関する件
第2号議案 2024年度 支部決算報告及び監査報告に関する件
第3号議案 2025年度 支部事業計画（案）に関する件
第4号議案 2025年度 支部予算（案）に関する件
第5号議案 2025年度 支部役員改選（案）に関する件
その他 連絡事項



定時総会 会場の模様



本部活動報告を行う時岡専務理事

[中四国支部]

中四国支部の 2025 年度定時総会が 7 月 10 日（木）11 時よりホテルグランヴィア広島（広島市南区）にて開催された。

提出された議案は原案通り承認され、続いて時岡専務理事より日食協本部の活動報告が行われた。

【2025 年度中四国支部定時総会 要旨】

日 時	2025 年 7 月 10 日（木）11:00AM
場 所	ホテルグランヴィア広島（広島市南区）
次 第	第 1 号議案 2024 年度事業報告書承認の件 第 2 号議案 2024 年度決算報告書承認の件 第 3 号議案 2025 年度支部事業計画案承認の件 第 4 号議案 2025 年度収支予算案承認の件
その他	本部報告 日食協本部 時岡専務理事

[北陸支部]

北陸支部の2025年度定時総会が7月15日（火）11時よりホテル日航金沢（金沢市）にて開催された。

当日は10時半より役員会が開催され、総会議案について確認を行った。続いて11時10分より定時総会を開催、以下の議案について審議が行われた。最後に日食協本部の時岡専務理事より本部活動報告が行われた。

【2025年度中四国支部定時総会 要旨】

- 日 時 2025年7月15日（火）11:10AM
場 所 ホテル日航金沢（金沢市）
次 第 第1号議案 2024年度事業報告並びに収支決算報告に関する件
第2号議案 2025年度事業計画並びに収支予算に関する件
第3号議案 日食協 本部より活動報告



定時総会 会場の模様

[東北支部]

東北支部の2025年度定時総会が7月17日(木)14時半よりホテルモントレ仙台5階(仙台市青葉区)にて開催された。

当日は14時半より定時総会が開催され、総会終了後は同所3階にて賛助会員連絡会が開催された。

【2025年度中四国支部定時総会 要旨】

- 日 時 2025年7月17日(木)14:30PM
場 所 ホテルモントレ仙台(仙台市青葉区)
次 第 第1号議案 役員選任の件
第2号議案 2024年度事業活動報告の件
第3号議案 2024年度決算報告の件
第4号議案 2025年度事業計画及び予算案の件

第1号議案「役員選任の件」では、元副支部長、佐藤和宏氏の異動に伴う辞任を受けて後任の選任が諮られ、国分東北株式会社代表取締役社長の小川智生氏が選任された。

定時総会終了後同所3階で開催された賛助会員連絡会では、日食協本部の時岡専務理事より本部活動報告が行われた。



定時総会 会場の模様



賛助会員連絡会で発表する時岡専務理事

N-Torus導入各社 様

N-Torus URLアドレス変更のご案内
～2025年4月リソース拡張 リリース～

2025年3月10日



一般社団法人 日本加工食品卸協会

1. ご案内

【ご案内】

N-Torusトラック入荷受付・予約システムのリソース拡張に伴い、URLアドレスの変更を行います。

日時：2025年4月20日（日）14：00～15：00(システム停止時間帯)

【新URLアドレス】

- ・ログイン画面（センター、運送業者様ご利用）

<https://nsk-c-truck-yoyaku-app.ntsrwebsites.net/View/Login.aspx>

- ・運送業者新規登録画面（運送業者様ご利用）

<https://nsk-c-truck-yoyaku-app.ntsrwebsites.net/View/RegTransport/RegisterForm.aspx>

- ・ドライバーログイン画面（ドライバー様ご利用）

<https://nsk-c-truck-yoyaku-app.ntsrwebsites.net/View/Driver/DriverLogin.aspx>

※新URLについてはリリース完了後利用開始となりますが、リリースまでに接続された場合は準備中の画面表示がされるようになっております。新URLへの事前接続確認などにご利用ください。



1. ご案内(続き)

【新URLアドレス】

- ・ドライバー電話番号登録画面（ドライバー様ご利用）

<https://nsk-c-truck-yoyaku-app.ntsrwebsites.net/D1>



- ・LINE友達追加画面（ドライバー様ご利用）

<https://nsk-c-truck-yoyaku-app.ntsrwebsites.net/View/Driver/DriverLineFriends.aspx>



- ・バース指示機能(個別指定)（システム間連携）

<https://nsk-c-truck-yoyaku-app.ntsrwebsites.net/api/BerthOrder1>

- ・バース指示機能(ファイル指定)（システム間連携）

<https://nsk-c-truck-yoyaku-app.ntsrwebsites.net/api/BerthOrder2>

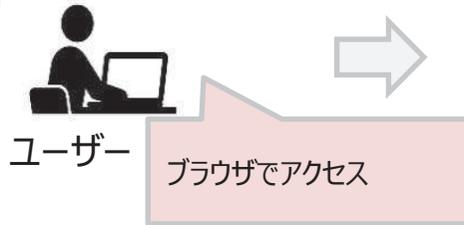
2 ご依頼事項

【ご依頼事項】

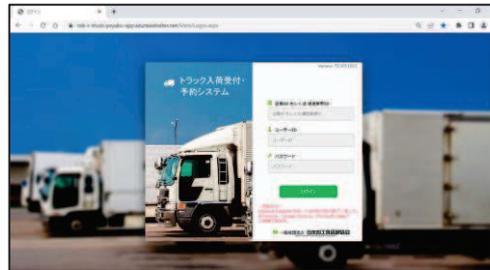
URLアドレスを「お気に入り」や「ブックマーク」などに登録されているお客様には、大変お手数をおかけいたしますが、新URLアドレスへ設定変更して頂きますようお願いいたします。

現行

A-① **現行URL**アドレス

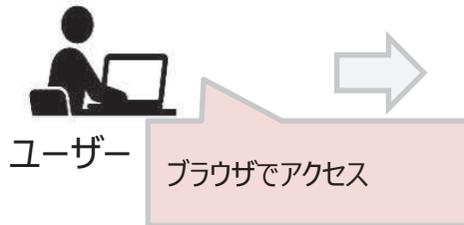


A-② ログイン画面

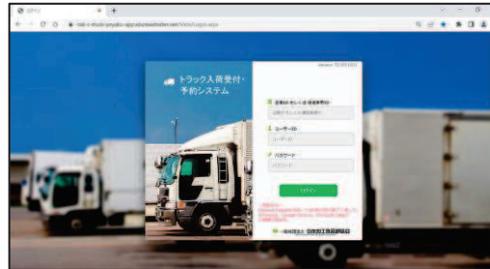


新環境

B-① **新URL**アドレス



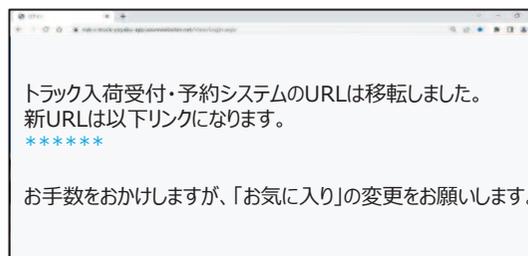
B-② ログイン画面



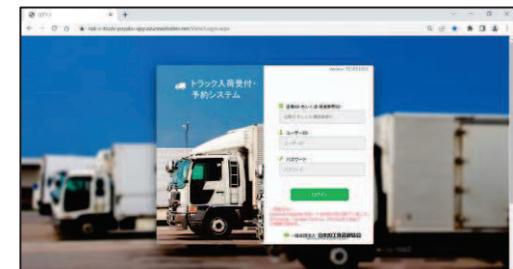
C-① **現行URL**アドレス



C-② **新URLアドレスへの切替**



C-③ ログイン画面





政策委員会

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
○ 伊藤忠食品 (株)	佐伯 泰昌	常務執行役員 第三部門部門長
加藤産業 (株)	打田 雅俊	常務執行役員 営業本部副本部長 東日本担当
○ 国分グループ本社 (株)	鈴木 嘉一	取締役専務執行役員
○ (株) 日本アクセス	奥川 洋介	取締役 常務執行役員 総合企画・ICT管掌補佐 兼ICT統括
三井物産流通グループ (株)	阿部 太	取締役専務執行役員 三井食品ユニット長
○ 三菱食品 (株)	細田 博英	取締役常務執行役員 商品統括
(一社) 日本加工食品卸協会	時岡 肯平	専務理事

○印：委員長 ○印：副委員長

執行運営委員会

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
伊藤忠食品 (株)	森 洋之	商品本部 本部長
加藤産業 (株)	梅澤 光男	営業本部副本部長付
国分グループ本社 (株)	酒井 宏高	執行役員情報システム部長兼サプライチェーン統括部業務改革推進部長兼デジタル推進部長
国分首都圏 (株)	殿村 貴茂	執行役員 首都圏業務センター部長
コンタツ (株)	津久浦慶邦	専務取締役 営業本部長
(株) サンヨー堂	新網 博信	常務取締役 商品部長
(株) 日本アクセス	福岡 良博	執行役員 総合企画・ICT管掌補佐 兼総合企画部長
三井物産流通グループ (株)	鈴木 孝典	三井食品ユニット 商品本部 副本部長
三菱食品 (株)	立目 昇	執行役員 商品統括代行
○ (一社) 日本加工食品卸協会	時岡 肯平	専務理事

○印：委員長

共通プラットフォーム構築専門部会

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
伊藤忠食品 (株)	沼 聡	経営企画本部 経営管理部 部長
加藤産業 (株)	松浦 博幸	執行役員 社長室長
○ 国分グループ本社 (株)	品田 文隆	取締役常務執行役員 経営統括本部副本部長
(株) 日本アクセス	福岡 良博	執行役員 総合企画・ICT管掌補佐 兼 総合企画部長
三井物産流通グループ (株)	鈴木 孝典	三井食品ユニット商品本部副本部長
三菱食品 (株)	杉本 智彦	情報システム本部長
(一社) 日本加工食品卸協会	時岡 肯平	専務理事

○：座長

N-Torus運営委員会

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
旭食品 (株)	福田 謙二	物流本部 物流部 部長
旭食品 (株)	城弟 宏樹	ロジスティクス本部副本部長
○ 伊藤忠食品 (株)	渡辺 三彦	ロジスティクス本部ロジスティクス運営部 部長
加藤産業 (株)	松村 功士	ロジスティクス企画部 ユニットマネージャー
国分グループ本社 (株)	岸 純平	物流統括部 改善推進課長
(株) 日本アクセス	栗原 大介	ロジスティクス企画部長
三井物産流通グループ (株)	奥州 大輔	物流ユニット 物流企画本部 本部長
三菱食品 (株)	跡治 永	SCM統括 統括オフィス室長
(一社) 日本加工食品卸協会	時岡 肯平	専務理事

○印：委員長

N-Torus技術専門部会

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
旭食品 (株)	福田 謙二	物流本部 物流部 部長
旭食品 (株)	橋本 潤	ロジスティクス本部 物流企画部 企画設計課 課長
旭食品 (株)	水口 聡	物流企画部企画システム課長
旭食品 (株)	金岡 宏樹	ロジスティクス本部 物流企画部 企画設計課 係長
旭食品 (株)	小林 翼	ロジスティクス本部 物流企画部 企画システム課
○ 伊藤忠食品 (株)	村上弘太郎	ロジスティクス本部 ロジスティクス運営部 企画チーム
加藤産業 (株)	西山 清三	ロジスティクス管理部
加藤産業 (株)	池田 星	ロジスティクス管理部
加藤産業 (株)	大嶋 佑介	ロジスティクス管理部 主任
国分グループ本社 (株)	新山 泰子	物流統括部 改善推進課 主幹
(株) 日本アクセス	岡本 紘樹	ロジスティクス企画部 物流構造改革推進課
(株) 日本アクセス	玉置 峻	ロジスティクス企画部 物流構造改革推進課
日本酒類販売 (株)	川崎 康輔	SCM統括本部 ロジスティクス部 企画課 課長
三井物産流通グループ (株)	小島 優希	物流ユニット 物流企画本部 営業企画部 物流推進室
三井物産流通グループ (株)	小野 稜太	物流ユニット 物流企画本部 運営統括部物流推進室
三菱食品 (株)	坪川 敬	SCM統括 統括オフィス 課長
三菱食品 (株)	鈴木 志拓	SCM統括 統括オフィス
三菱食品 (株)	福井 滉佑	(株) ベスト・ロジスティクス・パートナーズ

○印：座長

N-S i k l e 運営委員会

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
旭食品 (株)	片岡 将哉	ロジスティクス本部 情報システム部 主任
伊藤忠食品 (株)	西村 欣也	商品本部 商品統括部 商品チーム長
加藤産業 (株)	里中 周	営業企画部 部長
加藤産業 (株)	信田 浩貴	営業企画部 担当
カナカン (株)	黒田 亘	情報システム部 情報システム課 係長
カナカン (株)	竹部 保	富山支店 食品富山営業所 係長
亀井通産 (株)	岡橋 辰昭	専務取締役
亀井通産 (株)	安藤 嘉邦	営業サポート部 兼 物流統括部 部長
国分グループ本社 (株)	永井 真之	サプライチェーン統括部 業務改革推進部 マスタ管理課 課長
国分グループ本社 (株)	橋本 隼	サプライチェーン統括部 業務改革推進部 業務改革推進 副課長
コゲツ産業 (株)	樋田 昌紀	執行役員
コゲツ産業 (株)	中原 伸也	福岡支店営業課 課長
トモシアホールディングス (株)	和田 竜也	情報システム部 課長
(株) 日本アクセス	若月 智之	D X推進室 室長
日本酒類販売 (株)	小川 勝豊	S C M統括本部 情報システム部 部長
丸大堀内 (株)	三浦 信	八戸支店 食糧課 次長
丸大堀内 (株)	秋山 智史	管理本部 総務部 情報システム課 課長
三井物産流通グループ (株)	後藤 力	三井食品ユニット 戦略企画部 部長
三井物産流通グループ (株)	近藤千恵子	三井食品ユニット 戦略企画部
三菱食品 (株)	中村 隆志	マスタ管理グループ グループマネージャー
三菱食品 (株)	山口 陽	IT・デジタル統括 デジタルリユージョン本部 ITマネジメントグループ 管理ユニット
ヤマエ久野 (株)	原田 明穂	デジタル本部 情報システム部 部長
(株) ジャパン・インフォレックス	阿部 清光	総合企画部 部長
(株) ジャパン・インフォレックス	牧内 孝文	総合企画部 顧問
○ (株) サイバーリンクス	清原 智	S C M事業部 副事業部長
○ (株) サイバーリンクス	竹内 豊美	S C M事業部 S C M営業課 課長
◎ 一般社団法人 日本加工食品卸協会	佐藤登志也	参与

◎印：委員長 ○印：事務局

次世代標準 E D I 検討専門部会

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
ISCビジネスサポート (株)	河野 崇	取締役 営業経理統括部長 (兼) 管理部 部長
伊藤忠食品 (株)	佐多 洋文	情報システム本部 基幹システム推進部 営業・物流システムチーム 課長役
加藤産業 (株)	井上 良成	情報システム部 部長
国分グループ本社 (株)	佐藤登志也	顧問 (情報システム部兼サプライチェーン統括部 兼デジタル推進部)
○ 国分グループ本社 (株)	羽鳥 友治	情報システム部 副部長
国分グループ本社 (株)	平田 幸則	情報システム部 E D I 課上級主席
国分ビジネスエキスパート (株)	南部 祐志	経営統括部長 兼 業務企画担当 兼 売掛金管理部副部長
(株) 日本アクセス	佐藤 正信	I C T開発第2部 部長代行
日本酒類販売 (株)	小池 洋一	S C M統括本部 情報システム部 次長
日本酒類販売 (株)	嶋原 圭子	S C M統括本部 情報システム部 担当課長
三井物産流通グループ (株)	原 亨	デジタルプラットフォーム本部 本部長補佐
三井物産流通グループ (株)	山崎 栄之	デジタルプラットフォーム本部ロジスティクスシステム部部長
三井物産流通グループ (株)	伊能 政志	デジタルプラットフォーム本部ビジネスシステム部部長
三菱食品 (株)	河合 力也	情報システム本部 第三グループ 物流ユニット
三菱食品 (株)	鈴木 剛正	情報システム本部 第三グループ マネージャー
GS1 Japan (一財) 流通システム開発センター	坂本 真人	流通システム標準普及推進協議会 事務局長
GS1 Japan (一財) 流通システム開発センター	小山 早紀	ソリューション第1部グローサリー業界グループ
◎ 一般社団法人 日本加工食品卸協会	時岡 肯平	専務理事
◎ 一般社団法人 日本加工食品卸協会	大久保敏男	参与

◎：座長 ○：副座長

E D I W G

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
伊藤忠食品 (株)	長瀬 智紀	情報システム本部新基幹システムプロジェクト推進部新営業・物流システムチーム
加藤産業 (株)	仁保 叡宥	情報システム部
○ 国分グループ本社 (株)	平田 幸則	情報システム部 E D I 課上級主席
(株) 日本アクセス	真木 駿介	I C T開発第2部 物流システム開発第1課
日本酒類販売 (株)	上田 純士	S C M統括本部 情報システム部 開発二課 ユニットリーダー
(株) ファイネット	大村 勝利	企画部 副部長
三井物産流通グループ (株)	白澤 崇嗣	デジタルプラットフォーム本部ビジネスシステム部ビジネスシステム第一室
三菱食品 (株)	岩松 慶樹	情報システム本部 システム第一グループ 開発Bユニットリーダー

○印：座長

税務問題対応WG

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
伊藤忠食品(株)	加藤 洋平	経理本部 経理部 主計チーム
加藤産業(株)	川上 徹	経理部 専任課長
○ 国分グループ本社(株)	川副 友紀	経理財務部会計・税務課長
国分グループ本社(株)	寺田佳奈子	経理財務部会計・税務課
(株) 日本アクセス	江澤 隆広	財務経理部 経理課長
(株) 日本アクセス	吉田 裕文	財務経理部 経理課
三井物産流通グループ(株)	神尾 昌樹	フィナンシャルマネジメント本部 ビジネスユニット経理第一部 部長
三菱食品(株)	葛巻 良介	経理グループマネージャー

○印：座長

経理業務標準化WG

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
伊藤忠食品(株)	河野 崇	I S Cビジネスサポート(株) 営業経理統括部長
○ 国分グループ本社(株)	南部 祐志	国分ビジネスエキスパート(株) 執行役員経営統括部長
(株) 日本アクセス	都築 宗晴	事務管理部 部長
(株) 日本アクセス	田中 誠	事務管理部 業務管理課 課長
三井物産流通グループ(株)	小林 幹央	フィナンシャルマネジメント本部 システム統括部システムマネジメント室 室長
三菱食品(株)	中村 隆志	商品統括 マスタ管理グループマネージャー

○印：座長

情報システム研究会

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
旭食品(株)	松井 雄輔	ロジスティクス本部情報システム部長
伊藤忠食品(株)	根岸 洋一	情報システム本部新基幹システム推進部 部長
加藤産業(株)	枝川 勉	情報システム部 課長
カナカン(株)	今村 孝樹	取締役 情報システム部長
○ 国分グループ本社(株)	酒井 宏高	執行役員情報システム部長兼プラットフォーム統括部イノベーション推進部長
コゲツ産業(株)	樋田 昌紀	情報システム部 部長
(株) ジャパン・インフォレックス	丹羽 直樹	情報システム部長
(株) ジャパン・インフォレックス	我妻 英典	常務取締役商品情報システム管掌 兼 E D I . P F 事業部長
トモシアHD(株)	小川 俊博	情報システム部 部長
トモシアHD(株)	竹内 恒夫	情報システム推進室 顧問
(株) ファイネット	黒田 明	営業推進部 部長
(株) トーカン	野田 能男	営業サポート本部情報システム部 副部長
○ (株) 日本アクセス	田中 広介	I C T 開発1部長
日本酒類販売(株)	小川 勝豊	S C M 統括本部 情報システム部 部長
三井物産流通グループ(株)	山崎 栄之	デジタルプラットフォーム本部ロジスティクスシステム部 部長
三井物産流通グループ(株)	長妻 義明	デジタルプラットフォーム本部デジタルインフラ部 部長
三菱食品(株)	杉本 智彦	情報システム本部 本部長
ヤマエ久野(株)	原田 明徳	デジタル本部 情報システム部 部長
亀井通産(株)	安藤 嘉邦	営業サポート部 兼 物流統括部 部長

○印：座長 ○印：副座長

物流問題研究会

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
旭食品(株)	福田 謙二	物流本部 物流部 部長
旭食品(株)	城弟 宏樹	ロジスティクス本部副本部長
伊藤忠食品(株)	渡辺 三彦	ロジスティクス本部 ロジスティクス運営部 部長
加藤産業(株)	堂内 寛章	ロジスティクス企画部 部長
加藤産業(株)	西山 清三	ロジスティクス管理部
加藤産業(株)	松村 功士	ロジスティクス企画部 ユニットマネージャー
○ 国分グループ本社(株)	堀内 孝之	執行役員物流統括部長
国分グループ本社(株)	岸 純平	物流統括部副部長兼改善推進課長
国分首都圏(株)	山本 忠司	執行役員物流・システム部長
コンタツ(株)	長澤 憲明	物流統括部 部長
(株) トーカン	山路 雅之	営業サポート本部物流企画部部長
(株) 日本アクセス	栗原 大介	ロジスティクス企画部長
日本酒類販売(株)	原 英明	S C M 統括本部ロジスティクス部次長
三井物産流通グループ(株)	奥州 大輔	物流ユニット物流企画本部 本部長
○ 三菱食品(株)	跡治 永	S C M 統括 統括オフィス室長
ヤマエ久野(株)	御船 弘久	執行役員 物流二部長
◇ (株) ファイネット	米田 成起	営業推進部 専任部長

○印：座長 ○印：副座長 ◇印：オブザーバー

納品LT延長問題検討WG

(社名50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
伊藤忠食品(株)	渡辺 三彦	ロジスティクス本部 ロジスティクス企画部 部長
伊藤忠食品(株)	稲垣 司	広域営業本部業務部 業務第2チームチーム長
加藤産業(株)	堂内 寛章	ロジスティクス企画部 部長
加藤産業(株)	松村 功士	ロジスティクス企画部 ユニットマネージャー
加藤産業(株)	阿部 聖司	ロジスティクス部管理部 専任課長
国分グループ本社(株)	小林 健人	サプライチェーン統括部業務改革推進部 業務改革推進課長
○国分首都圏(株)	殿村 貴茂	執行役員 首都圏業務センター 物流・システム部管掌
国分首都圏(株)	清水 好子	首都圏センター 営業業務課長
(株)日本アクセス	水川 潤一	ロジスティクス企画部 汎用物流課長
三菱食品(株)	帰山 耕一	SCMサポート本部 発注管理 第2グループマネージャー
三菱食品(株)	波多野聖史	SCMサポート本部 戦略オフィス
三井物産流通グループ(株)	功力健太郎	物流ユニット 物流企画本部 営業企画部 物流推進室 室長

○印：リーダー

長時間待機・付帯作業検討WG

会社名	委員名	所属・役職
旭食品(株)	福田 謙二	東京支社 物流本部 物流部 部長
旭食品(株)	城弟 宏樹	ロジスティクス本部副本部長
○伊藤忠食品(株)	渡辺 三彦	ロジスティクス本部 ロジスティクス企画部 部長
伊藤忠食品(株)	稲垣 司	広域営業本部業務部 業務第2チームチーム長
加藤産業(株)	西山 清三	ロジスティクス部
加藤産業(株)	阿部 聖司	ロジスティクス部係長
国分首都圏(株)	山本 忠司	執行役員 情報・システム部長
国分首都圏(株)	殿村 貴茂	執行役員 首都圏業務センター物流・システム部管掌
(株)日本アクセス	海野 正芳	ロジスティクス企画部部長代行兼物流構造改革推進課長
(株)日本アクセス	木下 崇司	ロジスティクス企画部ロジスティクス企画課長兼汎用物流課長
三菱食品(株)	跡治 永	SCM統括 統括オフィス室長
三菱食品(株)	甲斐 友策	物流オペレーション本部 戦略オフィス
三井物産流通グループ(株)	功力健太郎	物流ユニット 物流企画本部 営業企画部 物流推進室 室長

○印：リーダー

ASN検討WG

(社名50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
旭食品(株)	橋本 潤	ロジスティクス本部 物流企画部 企画設計課 課長
旭食品(株)	田村 俊幸	ロジスティクス本部 情報システム部 オープン開発課 課長
○伊藤忠食品(株)	渡辺 三彦	ロジスティクス本部 ロジスティクス企画部 部長
伊藤忠食品(株)	田井聡一郎	ロジスティクス本部 ロジスティクス運営部 企画チーム チーム長代行
加藤産業(株)	河野 道治	ロジスティクス管理部 部長
加藤産業(株)	阿部 聖司	ロジスティクス管理部 係長
国分グループ本社(株)	岸 純平	物流統括部副部長兼改善推進課長
国分首都圏(株)	殿村 貴茂	執行役員首都圏業務センター部長
(株)トーカン	中井 雅志	営業サポート本部 物流企画部物流システム課 課長
(株)日本アクセス	海野 正芳	ロジスティクス企画部 部長代行
(株)日本アクセス	水川 潤一	ロジスティクス企画部 汎用物流課長
(株)日本アクセス	岡本 紘樹	ロジスティクス企画部 物流構造改革推進課
日本酒類販売(株)	川崎 康輔	情報物流本部物流統括部物流企画課課長
三井物産流通グループ(株)	功力健太郎	物流企画本部 運営統括部 物流推進室 室長
三井物産流通グループ(株)	大橋 克哉	物流本部 物流統括部
三菱食品(株)	跡治 永	SCM統括 統括オフィス室長
三菱食品(株)	甲斐 友策	物流オペレーション本部 戦略オフィス課長
ヤマエ久野(株)	柴田 寿和	デジタル戦略部 システム開発課 課長代理
ヤマエ久野(株)	田川 正樹	物流部 次長

○印：座長

商品開発研究会幹事店会

(社名50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
加藤産業(株)	成田 憲治	品質保証部 部長
国分グループ本社(株)	織田 啓介	マーケティング・商品統括部 商品開発部長
(株)サンヨー堂	佐藤 哲也	取締役 缶詰部長兼品質管理室長
三菱食品(株)	馬目 忠明	品質管理グループAユニットリーダー
(株)明治屋	佐藤 幸司	本社品質保証部 お客様相談室 参事

座長：輪番制

法務研究会

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
旭食品(株)	筒井 明	管理統括本部 総務部 次長
伊藤忠食品(株)	千本 徳文	管理本部 法務・コンプライアンス部 部長
加藤産業(株)	加藤 禎久	広報・CSR推進部 部長
加藤産業(株)	曾田 峰央	広報・CSR推進部 次長
加藤産業(株)	西川 浩史	広報・CSR推進部 係長
加藤産業(株)	廣田 尚紀	広報・CSR推進部
国分グループ本社(株)	徳永 雅憲	法務部長 兼 コンプライアンス室
(株)日本アクセス	矢野あゆみ	法務・リスクマネジメント部部长
日本酒類販売(株)	渡部 賢	管理本部法務部長
日本酒類販売(株)	郷右近 健	管理本部法務部次長
三井物産流通グループ(株)	渋谷 佳子	法務・コンプライアンス本部戦略法務部 部長
三菱食品(株)	土田 真悟	コーポレート担当役員補佐(法務・コンプライアンス)
三菱食品(株)	丸山 浩司	投融资・審査グループマネージャー

座長：輪番制

労務管理研究会

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
伊藤忠食品(株)	森谷 健司	管理本部 人事総務部 部長
加藤産業(株)	次家 成典	取締役上席執行役員管理本部長兼グループ管理担当
カナカン(株)	芝田 正虎	人事総務部長
国分グループ本社(株)	森本 健治	執行役員 人事総務部長
(株)日本アクセス	川端 康志	審議役 人事・総務部長
日本酒類販売(株)	鈴木 拓	管理本部総務部 部長
三井物産流通グループ(株)	須賀 学	人事総務本部 本部長補佐
三菱食品(株)	田熊 清史	人事グループマネージャー

座長：輪番制

サステナビリティ研究会 環境問題分科会

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
旭食品(株)	半田俊一郎	管理統括本部 総務部長
旭食品(株)	筒井 明	管理統括本部 総務部総務次長
伊藤忠食品(株)	川浪 智将	経営企画本部 経営企画部 サステナビリティ推進チーム チーム長
加藤産業(株)	曾田 峰央	広報・CSR推進部次長
加藤産業(株)	小泉 武士	CSR推進部
国分グループ本社(株)	中山 有	サステナビリティ推進部副部長
国分グループ本社(株)	野田 東男	サステナビリティ推進部サステナビリティ推進課グループ長
(株)日本アクセス	松田 祐二	ロジスティクス管理部 物流資産・品質管理課長
日本酒類販売(株)	丸伊 隆広	経営企画室担当課長
三井物産流通グループ(株)	小野 稜太	物流ユニット 広域物流本部
○三菱食品(株)	小林 一之	SCM統括 統括オフィス 担当部長
三菱食品(株)	内海 義秀	経営企画本部 SDGs推進ユニットリーダー
三菱食品(株)	西沢 仁	サステナビリティグループSDGs推進ユニットリーダー

○印：座長

サステナビリティ研究会 SDGs分科会

(社名 50音順 敬称略)

会社名	委員名	所属・役職
旭食品(株)	岡林 章一	経営企画本部 経営企画部 CSR推進課長
伊藤忠食品(株)	川浪 智将	経営企画本部 経営企画部 サステナビリティ推進チーム チーム長
加藤産業(株)	曾田 峰央	広報・CSR推進部次長
加藤産業(株)	小泉 武士	CSR推進部
国分グループ本社(株)	中山 有	サステナビリティ推進部 副部長
○国分グループ本社(株)	木戸恵美子	サステナビリティ推進部 サステナビリティ推進課
(株)日本アクセス	工藤 拓	広報・サステナビリティ推進部 サステナビリティ推進課 課長
(株)日本アクセス	大関 陽	広報・サステナビリティ推進部 サステナビリティ推進課
日本酒類販売(株)	丸伊 隆広	経営企画室担当課長
三井物産流通グループ(株)	谷田部友基	三井食品ユニット 経営企画本部
三菱食品(株)	岩野 真	経営企画本部サステナビリティグループ マネージャー
三菱食品(株)	矢野 悠介	サステナビリティグループ CN推進ユニットリーダー
三菱食品(株)	西沢 仁	サステナビリティグループSDGs推進ユニットリーダー

○印：座長

一般社団法人 日本加工食品卸協会 支部役員名簿

【北海道支部】

役職	氏名	企業名・役職	
支部長	齋藤 伸一	日本アクセス北海道株式会社	代表取締役社長 社長執行役員
副支部長	諏訪 勝巳	国分北海道株式会社	代表取締役 社長執行役員
副支部長	内山 勝夫	三菱食品株式会社	執行役員 北海道支社長
会計監事	上田 和久	株式会社スハラ食品	代表取締役社長 社長執行役員
常任幹事	伊関 淑之	北海道酒類販売株式会社	代表取締役社長
常任幹事	井関 信平	加藤産業株式会社	北海道支社 支社長
常任幹事	館林 宏佳	三井物産流通グループ株式会社	三井食品ユニット 首都圏支社 北海道営業部 部長

【東北支部】

役職	氏名	企業名・役職	
支部長	佐藤 淳	佐藤株式会社	代表取締役社長
副支部長	小川 智生	国分東北株式会社	代表取締役 社長執行役員
会計監事	鈴木 徹郎	株式会社山形丸魚	代表取締役社長

【関東支部】

役職	氏名	企業名・役職	
支部長	服部 真也	株式会社日本アクセス	代表取締役社長 社長執行役員CEO
副支部長	南 博貴	国分首都圏株式会社	代表取締役 社長執行役員
副支部長	生澤 晃	三井物産流通グループ株式会社	常務執行役員 三井食品ユニット 首都圏支社長
副支部長	秋山 亘	株式会社サンヨー堂	東京支店 支店長
副支部長	鈴木 嘉一	国分グループ本社株式会社	取締役 専務執行役員
副支部長	伊藤 貴史	三菱食品株式会社	執行役員 首都圏支社長
会計監事	永島 宏和	伊藤忠食品株式会社	営業第六部 部長
幹事	倉本 隆	日本酒類販売株式会社	代表取締役社長
幹事	長澤 憲明	コンタツ株式会社	物流統括部 部長
幹事	山田 真史	株式会社マルイチ産商	取締役 常務執行役員
幹事	斉藤 浩一	横浜乾物株式会社	代表取締役社長
幹事	前原 康宏	国分関信越株式会社	代表取締役 社長執行役員
幹事	山口 茂	ヤマキ株式会社	取締役会長
幹事	野口 智之	株式会社升喜	ホールセール事業本部 上席執行役員 商品政策部長
幹事	鈴木 和幸	常洋水産株式会社	取締役営業部長
幹事	瀬尾 公男	群馬県卸酒販株式会社	代表取締役社長
幹事	竹端 祥一	株式会社ヤグチ	執行役員 情報システム部 部長
幹事	林 伸二	ユアサ・フナシヨク株式会社	常務取締役 食品本部長
常任幹事	時岡 肯平	一般社団法人日本加工食品卸協会	専務理事

【東海支部】

役職	氏名	企業名・役職	
支部長	永津 嘉人	株式会社トーカン	代表取締役 社長執行役員
会計監事	西山 徹	西山商事株式会社	代表取締役社長
幹事	北村 篤司	株式会社北村商店	代表取締役社長
幹事	佐藤 太一	伊藤忠食品株式会社 第4営業本部	執行役員 第二部門部門長代行（兼）第4営業本部本部長
幹事	福井 稔	国分中部株式会社	代表取締役 社長執行役員
幹事	苅野 尚人	三井物産流通グループ株式会社 三井食品ユニット	中部支社長
幹事	篠崎 伸一	三菱食品株式会社	中部支社長

【北陸支部】

役 職	氏 名	企業名・役職	
支 部 長	谷口 英樹	カナカン株式会社	代表取締役会長
副支部長	塩田 浩一	株式会社田中興商店	代表取締役会長
会計監事	北野 守	石川中央食品株式会社	代表取締役社長
幹 事	野村 直紀	北陸中央食品株式会社	代表取締役社長
幹事（監査）	藤井 伸子	マルコク株式会社	代表取締役社長

【近畿支部】

役 職	氏 名	企業名・役職	
支 部 長	岡本 均	伊藤忠食品株式会社	代表取締役社長・社長執行役員
副支部長	菅 公博	加藤産業株式会社	専務執行役員
会計監事	村瀬 忠久	株式会社大乾	代表取締役社長
幹 事	寺田 明史	国分西日本株式会社	卸事業部長

【中四国支部】

役 職	氏 名	企業名・役職	
支 部 長	渋江 透	藤徳物産株式会社	代表取締役社長
副支部長	廣川 正和	広川株式会社	代表取締役社長
会計監事	小澤 康二	国分西日本株式会社	常務執行役員 中四国支社長

【九州・沖縄支部】

役 職	氏 名	企業名・役職	
支 部 長	工藤 恭二	ヤマエ久野株式会社	代表取締役社長
副支部長	本村 陽一	コゲツ産業株式会社	代表取締役社長
会計監事	今井 博臣	国分九州株式会社	代表取締役 社長執行役員
幹 事	石橋 講	旭食品株式会社	常務取締役 九州支社長
幹 事	岡崎 忠彦	伊藤忠食品株式会社	第6営業本部 九州支店長
幹 事	合田 恭典	加藤産業株式会社	執行役員 九州支社長
幹 事	松尾 裕二	株式会社三久食品	代表取締役社長
幹 事	隅倉功次郎	株式会社隅倉	代表取締役会長
幹 事	林田 洋佳	株式会社竹之下	代表取締役社長
幹 事	塩見 茂之	株式会社日本アクセス	審議役 西日本営業部門長補佐 九州エリア統括
幹 事	山口 剛久	三井物産流通グループ株式会社	三井食品ユニット 九州支社長
幹 事	佐塚 一郎	三菱食品株式会社	執行役員 九州支社長
幹 事	金城 英樹	株式会社湧川商会	代表取締役社長